

たいする貿易制限の緩和とともに國際無線にかんする制限も漸次解除されて、現在ではほとんど全世界と無線通信が行えるようになった。また、四六年九月十日から日本と世界各國との國際郵便業務も再開された。局長はG・I・バック代將。事務所は第一相互ビル内。民政局 (Government Section—GS) 中央、地方の政治部門を擔當する局で、總司令部の機構のうえては經濟科學局、天然資源局、民間情報教育局などと並んで占領行政の實務を擔當する専門部門の一つ。國會の運営、公職追放問題、中央行政、地方行政などの政治活動に直接關係を持つてゐるので、日本政府との關係では總司令部の各局のなかで最も重要なものである。局長はC・ホイットニー代將。總務課、政府課、法務課、地方行政課、特務課、議會、政治課、中央行政課、文官制度課(四七年五月現在)の八課にわかれてゐる。事務所は第一相互ビル。

民間情報局 (Civil Intelligence Section) 總司令部第二部に屬し、主に日本人を對象として占領軍の安全の維持、占領目的遂行に必要と認められる調査を行

い。通信、出版物、繪畫、ラジオの檢閲、日本警察、消防隊、刑務所行政の指導監督にあつてゐる。局長は、R・S・フラットン大佐。

賠償局 (Reparation Section) 一九四七年五月八日總司令部の一局として設置された。賠償用として要求、撤去の對象として指定されている日本産業資産の處理計畫を實施するにあたり、最高司令官に勸告するのが任務である。局長はウイリアム・K・ハリソン代將。

聯合國對獨賠償機關 (Inter-Allied Reparation Agency) 一九四六年一月十日のバリ賠償協定に基いて即日ブリュッセルに設立、米

英、佛、アルバニア、オーストラリア、ベルギー、カナダ、デンマーク、エジプト、ギリシア、インド、パキスタン、ルクセンブルグ、ノールウエー、ニュージールランド、オランダ、チェコスロヴァキア、南アフリカ連邦およびユーゴスラヴィアの十九ヶ國によつて構成され、各國はそれぞれ一名ずつの政府代表と、これを補佐する職員若干名を送つてゐる。その主なる任務は、バリ賠償協定において樹立された賠償割當ならびに評價の一般原則

に基いてドイツの廣範な賠償資産を十九の參加國政府間に分配するにある。この機關は十九名の各國政府代表で構成する總會と事務局からなり、總會はさらに主要問題別に委員會を設置してゐる。事務局は事務總長一名(英人)事務次長二名(米、佛各一名)と約二百名の各國職員からなつてゐる。なお、この機關にはソヴェトは加入してゐない。それはソヴェトにたいするドイツ賠償割當はポツダム協定できめられてゐるからである。「ドイツ賠償問題参照」

聯合國ドイツ管理理事會 (Allied Control Council—ACC) 米英佛ソ

四ヶ國占領軍の最高司令官で構成する、ドイツ統治にかんする最高議決機關。所在地はベルリン。管理理事會の決議がドイツ全體に關するときは全員一致を要する。各最高司令官は一名の政治顧問によつて補佐され、四ヶ國共同の政策に従つて自占領地域内の立法、行政、司法にかんして最高權限を行使する。管理理事會の下部組織として、四占領軍政長官代理をもつて構成する調整委員會 (Coordinating Committee) があり、管理理事會はその

處理問題の大部分をこれに付託して、報告案を作成させる。管理理事會の決定事項は、これまた下部組織たる各専門分科委員會に委託して實行に移す。なお、各占領地帯にはそれぞれ管理委員會 (Control Committee) があり、各最高司令官の諮問機關となつてゐる。

レンダー・バンク (Laenderbank) ドイツ米英占

領地帯の中央銀行として一九四八年二月十五日設立。資本金一億マルクは米英占領地帯各州の銀行から出資されてゐる。この銀行は新通貨發行の權限を付與されるとともに、その他、舊中央銀行のライヒスバンクの有した機能の大部分を行使する。設立要領は、(一)所在地をフランクフルトとする(二)この中央銀行に加盟する各州銀行の管轄區域に流通すべき通貨はこの中央銀行のみが發行する(三)連邦準備銀行としての役割を果し、加盟諸銀行の支拂能力を保證するとともに、諸銀行營業方針の統一をできるだけにかる(四)加盟銀行間の唯一の手形交換機關としての役割をになうとともに、外國の中央銀行との取引ならびに爲替、金銀ブラチナの賣買を行うなどで、米英軍政府はこの銀行に

たいする監督機關として連合國銀行委員會 (Allied Banking Commission) を設け、佛ソ兩占領地帯がこの銀行に参加する場合には、佛ソ軍政府代表者を委員會に加えることになつてゐる。

**連邦検察局(米國)**

(Federal Bureau of Investigation - FBI) 米國の高等警察機

關。一九〇八年米國諸法規の違反事件を調査し、證據を集める任務をもつて設置されたが、一七年から外國人スパイ探査、選抜徴兵法違反者摘發等の任務を合せた。今日では高等警察の大組織網を持ち、指紋だけでも四七年六月末現在一億四百萬以上を集めており、また三五年には特殊のFBI大學を設立してゐる。

**連邦準備制度**

(Federal Reserve System) 米國の

中央銀行制度で一九一三年に成立した。この制度において全國は十二の連邦準備區に分たれ各地區に一つの連邦準備銀行 Federal Reserve Bank が設立され、準備銀行はその地區の國法銀行を強制株主とし、州法銀行を任意株主とする。各準備銀行は國法銀行にかわつて銀行券を發行すると共に、加盟銀行の預金

準備の集中、商業手形の再割引、公開市場政策によつて各地區の金融統制にあたる。ワシントンには連邦準備制度理事會 (Board of Governors of the Federal Reserve System) をおいて、連邦準備銀行の指導にあたらせてゐる。すなわち連邦準備制度は、諸外國の中央銀行制度に地方分散主義を加味して米國の事情に適應させた統一的な金融制度である。米國は一三年以前には中央銀行を持たず、わずかに銀行券の發行が國法銀行制度によつて統一されていただけであつたが、この連邦準備制度によりはじめて、米國は銀行券の發行の集中化を實現し、神縮性をもつ發券制度をもつことになつたのである。

**【ロ】**

**ロータリー・クラブ**

(Rotary Club) 一九〇五年米人ポール・ハリス氏

(Paul P. Harris) によつて創始された一種の社交クラブで、友愛、社會奉仕、國際親善、世界平和を理想としている。種々職業を異にする實業家、専門職業人から、一職業一人の原則で廣く會員を求め、第二次大戰前には

世界各國に五千餘のクラブ、十六萬の會員を持つていた。

**ロイター**

(Reuters' Telegraphic News Agency) 英國最大の國際ニュース通信社。一八三〇年代にジュリアス・ロイターが創設、全世界的な通信網は同氏によつて確立され、世界各國の主要通信社はいずれもロイターと提携してゐる。ロイター通信がもつともはなやかに活動したのは、第一次世界大戰當時で、敗戦ドイツをして「宣傳戰で敗けた」と嘆せしめたのは、主としてロイター通信の力によるものである。

**勞働十六原則(對日)**

極東委員會は一九四六年十月十八日日本の勞働組合

運動に關する基本原則十六項目を決定發表した。冒頭、日本の勞働者が(1)勞働條件を防護、改善し(2)この目的で勞資協約を交渉し(3)平和的民主的日本の建設に團體として参加するという三目的をもつて、組合を組織することを奨励し、第五項ではストライキその他の作業停止は、占領軍當局が占領の目的ないし必要に、直接不利益をもたらすと考へた場合にのみ禁止されることを明らかにしている。また、組合の組織形態を選ぶのは

日本人の自由とし(第九項)、組合組織は勞働者の民主的な自己表現と、イニシアティブ發揮の過程でなければならぬ(第十項)と組合の自主性を強調してゐる。このほか主な項目としては、組合の政治活動の許可、追放人物の組合からの排除、組合妨害機關の廢止、非民主的組合の解散、思想犯の釋放、組合財政公開などの諸原則がある。

**「勞働者の力」派**

(Force ouvrière) フランス勞働

七年十二月の大罷業で共産黨系多數派指導部のとつた方針にあきたらず、同月十九日連同盟を脱退した。勞組運動を一切の政治的制約から解放するというのがその主張である。實際は大戦前からの改良主義的方針をつゞけようとするもので、指導者は連同盟書記長として戦前から名を賣つたジュオー。炭鐵と金屬勞働組合が脱退運動の主力となつたといわれる。「勞働者の力」とは、少數派時代から發行して来た機關誌の名をとつたもの。「フランス勞働連同盟参照」

### 六全大會

中國々民黨第六次全國代表大會の略稱。六全大會は一九四五年五月五日から重慶において、三六年の五全大會から九年ぶりて開かれた。この大會では、抗戦の勝利が確實になつたので、速かに訓政期を終了し憲政期に移るとの根本方針が定められ、(一)四五年十一月十二日から國民大會を開催し憲法を制定する(二)對外、とくに對ソ親善關係を増進する(三)各學校および軍隊内の黨部の全廢(四)國民黨以外の政黨の合法性を認める(五)國共關係の改善(六)國民黨内の政治的機關の政府への移管などを決議、從來の國民黨の一黨專制をやめ、黨と軍政機關を分離し、他政黨と同等の地位に立つことになつた。「全國代表大會 参照」

### ロックフェラー財團

(The Rockefeller Foundation) 米國の鋼鐵王ジョン・ロックフェラーの私財寄附(一億八千二百八十餘萬ドル)によつて一九一三年設立され、「全世界人類の福利を増進する」目的をもつて、廣範な社會事業、教育事業、學術振興事業にあたつてゐる。

### ロンドン外相會議

(The Council of Four Power Foreign Minister) ポツダム宣言の決定にもとづき、一九四五年九月十一日から十月二日まで第一次ロンドン外相會議が開催され、ついでモスクワ外相會議、パリ外相會議を経て一九四七年十一月廿五日から十二月廿五日まで第二次ロンドン外相會議が開かれた。第一次ロンドン外相會議は米英ソ佛華五ヶ國外相出席のもとに主としてイタリア問題について討議されたが、何ら具體的な成果はなく、とくに、後段においては手續上の問題で行詰りに達し、一切は次回に持越された。第二回の會議は米英佛ソ四國外相によつてドイツ、オーストリア講和問題が討議された。終戦以來この會議にいたる間、戦後處理問題をめぐる米ソの對立は次第に激化し、本會議は大國間の最後の協調の機會として世界の注目の的となつていた。重要議題は(一)オーストリア講和條約起草委員會の報告書(二)ドイツ政治機構の將來の形體(三)ドイツ講和條約の基礎となるべき諸經濟原則および、同條約の起草手續(四)ドイツ國境問題(五)米提案のドイツ非武装化監視にかんする四ヶ國條

約案(六)ドイツ非武装化にかんし四七年三月モスクワ會議で採擇された諸決定の實施にかんするソヴェト提案などであつたが、結局、會議はソ連の對獨百億ドル賠償要求をめぐる他の三國との對立をはじめ、重要問題についてはことごとく意見の一致をみるにいたらず、激烈な論戰の末成果らしい成果もなく、四七年十二月廿五日マニラ米國務長官の發議で會議は決裂状態のまま打ち切られた。「外相會議、ポツダム宣言参照」

### [ウ]

### ワールド・シリーズ

(World Series) 米國職業野球總聯盟 (Organized Base-Ball of America) の主催する世界選手權試合。職業野球リーグのうち、メイジア・リーグといわれるナショナル、およびアメリカン兩リーグの各優勝チームがこの世界選手權試合を行う。兩リーグに屬するのは合計十六チームで、それぞれ米國の主要都市を代表し、獨特のチーム名を持つてゐる。

ナショナル・リーグ (National League)

(ア)

ボストン (ブレイヴス) ブルックリン (ドジャース) シカゴ (カッブス) シンシナチ (レッズ) ニューヨーク (ジャイアンツ) フィラデルフィア (フィリーズ) ピッツバーグ (パイレーツ) セントルイズ (カーチナルス)   
 ▼アメリカン・リーグ (American League)   
 ボストン (レッド・ソックス) シカゴ (ホワイト・ソックス) クリーヴランド (インディアンス) デトロイト (タイガース) ニューヨーク (ヤンキース) フィラデルフィア (アスレティックス) セントルイズ (ブレーブス) ワシントン (セネターズ)   
 右のうち、ナショナル・リーグのブルックリンはニューヨーク市ブルックリン區を代表し、一都市なみに扱われている。各リーグの試合は毎年四月中旬から九月末の間つづき、兩優勝チームが顔合せするワールド・シリーズは十月初めである。

なお、米國の職業野球には右の二メイジア・リーグのほか、マイナー・リーグと稱するものが十二あり、これらを合計して九十七チーム(九十七都市)にのぼつてゐる

ワシントン輸出入銀行

(Export-Import Bank of Washington) 對外資金貸

付けのための政府銀行。その貸與をうける相手先は、外國の政府あるいは國民で、融資目的は米國および米國領土とこれらの地域との間の輸出入、および商品の交易を促進するためである。また、一般銀行業務を行うことも許されている。同銀行は一九三四年設立され、資本金は十億ドル。いかなるときでも資本金の五倍半を越えない限度で借入金をするを許されており、銀行業務は、國務、財務、農務、商務の各省、復興金融會社などの代表十一名からなる理事會によつて運営される。

世界人名録

一九四八年六月一日現在

目次

アイケルバーガー	一	ヴァルガ	三	エリオ	六	キーナン	八
アイゼンハワー	一	ヴァンデンバーグ	三	オースチン	六	キスレンコ	八
アインシュタイン	一	ヴィンソン	三	オールドリツチ	六	ギユツト	九
アザット	一	ウエインソン	三	王雲五	六	キユーリー	九
アトリー	一	ウエデマイヤー	三	王世杰	六	許憲	九
安在瀧	一	ウエツプ	三	王龍恩	六	居正	九
アンダーソン	一	ウエルシュ	三	翁文灏	七	キリノ	九
[イ]		ウオーレス	三	オニール	七	キレン	九
イーストランド	二	ウオーレン	三	オリオール	七	金料奉	九
イーデン	二	ウーデン	三	[カ]		金九	一〇
イートン	二	[エ]		カイザー	七	キンダ	一〇
イノニユ	二	エイナウデイ	三	カイナー	七	金龜種	一〇
インボーデン	二	衛立燧	三	何應欽	七	金性洙	一〇
[ウ]		エヴァツト	三	郭沫若	七	金日成	一〇
于斌	三	エジンバラ公	三	[キ]		クオン・アパイウオン	一〇
于右仁	三		三	魏道明	七	クサン	一〇
						クラーク	一〇

グリオン	二	胡宗南	二	ジャユ	六	清経	一〇
クリツプス	二	ゴットワルト	二	シャリフデイン	六	蔣介石	一〇
クリバラニ	二	胡適	二	シャヤル	七	商震	一〇
グリーン	二	吳鐵城	二	シユーマン	七	蔣廷黻	一〇
クルーグ	二	吳鼎昌	二	シユヴェルニク	七	邵力子	一〇
クレイ	二	[サ]		シユウエレンバツタ	七	ジョンストン	一〇
クレイマー	二	サイミントン	二	ジュネー	七	シンクレア	一〇
クレメンチス	二	サイヤン	二	周恩来	七	ジンナー	一〇
グロムイコ	二	サオ・シユエ・ダイク	二	朱家驊	七	[ス]	
[ケ]		ザボトツキ	二	朱世明	七	スアン	一〇
クナン	二	サラザール	二	朱學範	七	スカルノ	一〇
クラ	二	サリヴァン	二	ジュダノフ	七	スターリン	一〇
ゲルヘルゼン	二	サンガー	二	朱徳	七	スタヴセン	一〇
[コ]		[シ]		シユラム	七	ストコフスキー	一〇
顧維鈞	二	シーボルド	二	徐傳霖	七	ストライク	一〇
コクトー	二	ジイド	二	シヨ(バーナード)	七	スチユアート	一〇
吳國楨	二	シエイク	二	シヨ(パトリック)	七	スナイダー	一〇
孔祥熙	二	シエンノート	二	シヨロホフ	七	スミータ	一〇
顧祝同	二	ジャクソン	二	ジョーシ	七		

スフォルツァ	三	タキン・ヌー	三	陳啓天	六	董顯光	三
スマツタ	三	タキン・ミヤ	三	陳廣	六	鄧文儀	三
スミス	三	ダグラス	三	陳誠	六	董必武	三
[七]		タフト	三	陳立夫	六	ド・ゴール	三
聶榮臻	三	タムロン・ナワサツト	三	[ツ]		杜聿明	三
薛岳	三	タルク	三	ツアルダリス	六	トスカニーニ	三
[ツ]		[チ]		[テ]		ドツド	三
ソイヤ	三	チーフリー	三	鄭介民	六	ドナルドソン	三
曹禺	三	チート	三	デイズニー	六	トリアツチ	三
宋慶齡	三	チャイチル	三	程潛	六	トルーマン	三
宋子文	三	チヨイ・バルサン	三	鄭洞國	六	トレーズ	三
樂美齡	三	張嘉璈	三	デイマツジョ	六	ドレーパー	三
曾琦	三	張君勱	三	テイラー	六	[セ]	
孫科	三	張群	三	デイミトロフ	六	ナラヤン	三
孫立人	三	張治中	三	デ・ガスベリ	六	[ニ]	
[タ]		張伯苓	三	デュイイ(ジョン)	六	ニュージエント	三
戴傳賢	三	張瀾	三	デュイイ(トーマス)	六	[ホ]	
タキン・スエ	三	張厲生	三	[ト]		ネール	三
タキン・タントン	三	陳毅	三	馬恩伯	六	[リ]	

ノールランド	三	ハリソン	三	ファン・モーク	三	ヴォーン	三
ノエルペーカー	三	ハリマン	三	ファイアリング	三	茅盾	三
[ハ]		バルーク	三	フェラー	三	ホー・チーミン	三
ヴァルガ	三	范漢傑	三	フォード	三	ホイットニー	三
ヴァンデンバーグ	三	バンテイング	三	フォレストル	三	彭德懷	三
巴金	三	[ヒ]		ブラサド	三	朴憲永	三
バ	三	ヴィンスキ	三	フランコ	三	ホツジ	三
バシキヴィ	三	ヴィンソン	三	ブリジ・パノムヨン	三	ホフマン	三
ハースト	三	ビヴァリツヂ	三	ブルーム	三	ポリツト	三
バード	三	ピオ	三	ブルガーニン	三	ポレール	三
バー・モ	三	ピツケル	三	フレージャー	三	[マ]	
貝祖詒	三	ピド	三	[ハ]		マーカット	三
パウケル	三	ビブン	三	ベヴィン	三	マーシャル	三
バオダイ帝	三	ビユウ	三	ヘツセ	三	マーチン(ウイリアム)	三
白崇禧	三	福玉祥	三	ベネシユ	三	マーチン(ジョセフ)	三
バタワーズ	三	[ラ]		ヘミングウェイ	三	マイズ	三
ハツタ	三	傅作義	三	ペリア	三	マウントバツテン	三
パテル	三	フーヴァ	三	ベン・グリオン	三	マクフェイル	三
ハムスン	三			[ホ]		マクロイ	三

マツカーサー	余漢謀	ルース
マツコイ	ラヴェット	ルイス(ジョー)
マリク	ラウレル	ルイス(ジョン)
マレー	ラジャゴバラチャリアル	ルイス(シンクレア)
マン(トーマス)	ラスキ	ルーズヴェルト夫人
メイバンク	羅卓英	レンナー
メニユーイン	李濟	ロイヤル
モーム	李承勳	老舎
毛澤東	李宗仁	ロックフェラー
モリソン	李立三	ロバートソン
モロトフ	リ	(サー・ブライアン)
俞瀾鈞	リアカフト	ロバートソン(ヒュー)
俞大維	劉少奇	ロブソン
熊式輝	劉伯承	ロムロ
林	林彪	ワイズマン
林	林語堂	

(ア)

**アイケルバーガー** ロバート・ローレンス・アイケルバーガー (Robert Lawrence Eichelberger) 米第八軍司令官。陸軍中將。一八八六年生。オハイオ州立大学から陸軍士官学校に移り、一九〇九年卒。陸士校長時代、科連戦に備えて教育革新を断行、今次大戦にはマ元帥麾下の將軍として常に前線にたち、現在第八軍司令官。

**アイゼンハワー** ドワイト・アイゼンハワー (Dwight Eisenhower) 前陸軍参謀總長。一八九〇年生。一九一四年陸士卒。第一次大戦には戦車隊長、三〇年マッカーサー將軍を助けて比島の軍備擴張に努力、今次大戦には欧州派遣軍司令官として對獨勝利に貢献。四五年マーシャル元帥の後を繼いで参謀總長。四八年一月退職、コロンビア大學總長に就任。

**アインシュタイン** アルバート・アインシュタイン (Albert Einstein) 物理學者。一

(イ)

八七九年生。ユダヤ人を両親にもつドイツ人。チューリッヒ大學卒。ベルリン大學、チューリッヒ大學、ブライグ大學の物理學教授を経て一九一五年有名な相對性原理を發表。二年ノーベル賞を受く。ヒトラー政權成立とともに米國へ脱れ、プリンストン大學教授。戰時中原子爆彈製造の理論的裏付けに貢献。

**アザット** マウラナ・アブドル・カラム・アザット (Maunana abdul Kalam Azad) インド連邦教育相。インド連合州に生る。回教徒、アリガール大學卒。回教徒正統神學(ジャミアット・ウレマ)の權威者。ガンジの熱心な信者で會議派の有力メンバー。一九四六年十二月インド中間政府交通相就任。獨立後現職に就任。

**アトリー** クレメント・アトリー (Clement Attlee) 大學卒。辯護士、フェビアン協會に入り社會運動に乗出す。ロンドン大學教授を経て一九一九年ステブニー市長。二二年労働黨から下院議員に當選、三〇年ランカスター公領領督、三一年労働黨副黨首、三五年黨首

(ア)イ

國爾尙書、副首相を経て四五年七月首相。

安在鴻

(An Chai-hong) 南鮮過渡政府民政長官。一八九三年生。早稻田大學卒。一九一九年万才

事件に關係し三年服役、出獄後言論界に入り時代日報、朝鮮日報の主筆社長。解放前から呂運亨氏等と建國同盟を組織、解放とともに建國準備委員會副委員長四五年朝鮮國民黨を組織して黨首。四六年韓國獨立黨と合併、四七年二月軍政廳民政長官。四七年九月民主獨立黨樹立にも關係している。

アンダーソン

クリントン・D・アンダーソン(Clin-ton P. Anderson) 前米農務長官。一八九五年生。新聞記者、實業界、官界を経て一九四一年上院議員。四五年六月農務長官、四八年五月辭職。

【イ】

イーストランド

ジェームス・イーストランド(James Eastland) ミシシッピ州選出民主黨上院議員。一八七七年生。州上院議員を経て一九一六―二〇年州副知事。三四年以來上院議員。最近一億

シニア州生。テキサス農業・機械大學、カリフォルニア大學卒。一九四二年應召、四五年十月來日、今日にいたる。應召前、カリフォルニア州サン・ルイス・オビスポで新聞社を經營、自らも筆をとつた。

【ウ】

ヴァルガ

エフゲニー・ヴァルガ(Yevgenij Varga) ソ連の經濟學者。一八七九年ハンガリー生れ。一九二〇年第二回コミンテルン大會に参加以來ソ連に入り、世界政治經濟研究所長として世界經濟理論を展開、「恐慌論」の名著を出した。「世界經濟年報」の編纂者。最近に至り自説を覆えし、資本主義社會に今後十年間恐慌は來ないと説いたためソ連當局からならまれ、同研究所長を追われたといわれる。

ヴァンデンバーグ

アーサー・ヴァンデンバーグ(Arthur Vandenberg) 米共和黨ミネソタ州選出上院臨時議長(President Pro Tempore) 一八六五年生。新聞記者生活廿年を経て政界に轉じ一九二八年上院議員に當選。現在上院外交委員長

(ウ)

五千萬ドル對日棉花回轉基金法等を提出した。

イーデン

アンソニー・イーデン(Anthony Eden) 英前外相。一八九七年生。一九二三年以來保守黨下院議員、外務次官、國爾尙書、自治領相、陸相を経て四一―四五年チャーチル内閣の外相。

イトトン

チャールズ・イトトン(Charles Eaton) 米共和黨ニュージャージー州選出下院外交委員長。一八八二年生。一九二八年以來下院議員、四五年のサンフランシスコ國連會議、四六年のニューヨーク國連總會に出席。四七年一月現職。

イノニエ

イスマット・イノニエ(Ismet Inonu) トルコ大統領。一八八四年生。早くから軍籍に入り、バルカン戦争、第一次大戦、希土戦争に従軍、一九一六年アタチュルクの參謀長。二三年共和国成立とともに首相。三八年アタチュルクについて二代大統領、現在人民共和黨々首。

インボデン

ダニエル・カリングトン・インボデン(Daniel Carrington Imboden) 連合軍總司令部民間情報教育局新聞課長。陸軍少佐。ダニー

を兼任。四五年サンフランシスコ國連會議出席以來ロンドン國連總會、パリ外相會議、ニューヨーク安全保障理事會、パリ平和會議等にバインズ前國務長官隨員として活躍。太平洋戦争勃發前まで孤立派であつたが、戦争中國際主義者に轉じ超黨派外交を信條とした。

ヴァイシンスキー

アンドレイ・ヴァイシンスキー(Andrei Vyshinski) ソ連外務次官。一八八三年生。一九〇二年社會民主黨入黨。二三―二五年檢事總長、モスクワ大學教授。三五年司法人民委員四〇年外務次官。

ウイルソン

ハロルド・ウイルソン(Harold Wilson) 英商相。一九〇七年生。労働黨の新鋭議員として四五年海外貿易相。英ソ通商交渉で活躍、四七年商相。

ヴァインソン

フレッド・ヴァインソン(Fred Vinson) 米大審院長。一八八四年生。一九二三年以來下院議員、經濟安定局長官、戰時動員再轉換局長官歴任。四五年財務長官。四六年現職。



(ウ)

ウエデマイヤー

アルバート・ウエデマイヤー (Albert C. Wedemeyer) 米陸軍参謀本部作戦部長。中將。一八九七年生。米陸軍士官學校卒。一九四四年在華軍司令官。終戦後歸國して第二軍司令官。四七年八月米大統領特使として中國、朝鮮を訪問。情勢を大統領に報告、のち現職に轉じた。

ウエツプ

ウィリアム・F・ウエツプ (William F. Webb) 極東國際軍事裁判長。一八八七年オーストラリアのブリスベーンに生る。クイーンズランド大學卒。一九二五年最高裁判所判事、クイーンズランド仲裁裁判所裁判長兼任。四三年日本戦犯調査オーストラリア委員長。四六年一月東京裁判裁判長に就任。

ウエルシュ

エドワード・C・ウエルシュ (Edward C. Welsh) 總司令部經濟科學局反トラスト・カルテル課長。一九〇九年生。五年間物價管理局 (OPA) に勤務、四七年四月現職に就任。かつてオハイオ州立、シンシナチ兩大學の經濟學教授。大學を去り臨時全米經濟委員會に入り、米國企業の獨占問題

を研究、關稅、國際通商、につき多數の論文がある。

ウォーレス

ヘンリー・ウォーレス (Henry Wallace) 米國進歩市民同盟委員長。一八八八年生。アイオア大學卒。一九三三—四〇年まで農務長官。四一—四五年度まで副大統領。四五年三月商務長官に轉じたが四六年九月トルーマン大統領と外交政策で意見對立して辭職。その後左翼誌ニュー・レパブリック編集長に就任。四七年進歩市民同盟を中心とした知識層労働組合などをバックに第三黨から大統領選挙に出馬を聲明。今日まで一貫して對ソ協調を説き、現政府の反共政策に反對して戦争反對を強調。ルーズヴェルト大統領時代からニューデイルの理論的指導者として「六千萬人の雇用」等著書がきわめて多い。

ウォーレン

アール・ウォーレン (Earl Warren) カリフォルニア州知事。一八九一年生。加州大學卒。一九一九年州議會に入り四三年一月以來州知事。四七年共和黨から大統領選挙立候補を聲明。

ヴォーン

ウィリアム・S・ヴォーン (William S. Vaughan) 總司令部經濟科學局工業課長。

ウンデン

エステン・ウンデン (Osten Unden) スウェーデン外相。一八八六年生。一九二一—三一年國際連盟總會代表。二四—二六年外相。四五年七月再度外相。

[H]

エイナウデイ

ルイジ・エイナウデイ (Luigi Einaudi) イタリア大統領。一八七四年生。一九一九年上院議員、無所属。トリノ大學經濟學教授。コリエーレ・デラ・セラ紙編集に從事、エチオピア作戦に反對し海外に亡命、四四年以來イタリア銀行總裁。四六年國際復興開發銀行、國際通貨基金伊代表。四七年デ・ガスペリ内閣の副首相兼蔵相。四八年五月イタリア共和國の初代大統領に就任。

衛立煌

(Wei Li-huang) 東北掃共總司令。一八七六年生。安徽省出身。保定軍官學校卒。一九二九年以來華中の掃共戦に軍功をたて、國府はかれを表彰するため安徽に「立煌縣」を新設した。近代的戰略家で抗日戦中、第一戰區司令長官、雲南遠征軍司令官

ニューヨーク市バーミユテイト會社の工場長。一九四二—四四年まで外國經濟院經濟開發課長、日本および南米諸國の工業水準調査に當つた。四四—四五年まで連合國イタリア管理委員會の工業顧問。四六年以降イタリア政府の工業顧問。四八年三月現職に就任。

于斌

(Paul Yehin) 中國公教區大司教。一九〇〇年山東省に生る。イタリア留學、神學博士、哲學博士の學位を受く。ベイピン教區司祭、ナンキン教區司教を歴任大司教となる。國民大會議長團の一人として各派間をあつ旋し政治的にも重きを加えている。

于右仁

(Yu Yui-jen) 監察院長。一八七八年生。陝西省人。日本と英國に留學、早くから孫文に私淑、上海で新聞を經營革命思想を鼓吹。孫文死後北京にあり國民黨領袖。西北國民軍副司令として馮と行動をとるとし一九二七年武漢政府委員、同年南京政府樹立とともに陝西省主席、二八年以後黨、政府要職を歴任。國民黨常務委員。四八年初代副總統に立候補落選。

(ウーH)

(エーオ)

としてビルマ戦に活躍。終戦後軍事使節團員として米英を訪問、四八年二月陳誠の後をうけて現職。

**エヴァット**

ハーバート・エヴァット(Herbert Evatt) オーストラリア外相。決博。一八九四年生。一九三〇年最高裁判所判事。四〇年労働黨下院議員、四一年外相兼法相。サンフランシスコ國連會議、安全保障理事會、パリ平和會議、極東委員會等國際會議の大半に出席。

**エジンバラ公**

エジンバラ公殿下。(Duke of Edinburgh) 一九二〇年生。デンマルク、ギリシアの皇族であつたが四七年十一月廿日英國皇女エリザベス姫と結婚。元のフイリツプ・マウントバツテン大尉。

**エリオ**

エドワード・エリオ(Eduard Herriot) フランス國民議會議長で急進社會黨々首。一八七二年生。一九二四年以來歴代内閣の首相、文相、外相を歴任。三二年三度び首相兼外相。四七年國民議會々長。

六

**【オ】**

**オースチン**

ウォーレン・オースチン(Warren Austin) 國連米常任代表。一八七七年生。コロンビア大學卒。一九三一年ヴァーモント州選出共和黨上院議員。四六年以來國連常任代表。

**オールドリツチ**

ウィンスロップ・オールドリツチ(Winthrop Aldrich) チェイス・ナショナル銀行頭取。一八八五年生。

**王雲五**

生。廣東省人。獨學、各國語に通じ中國の著名な著述家で辭書編纂者。第一革命當時ウースン中國公學校教授。一九一三年ベイピン中國大學教授。のち商務印書館總經理兼研究所長、東方圖書館長。戰時中國民參政會常置委員會委員。四六年五月國府改組に當り中立代表として入閣、行政院副院長兼經濟部長。四七年五月兼職辭任。四八年五月現職。

**王世杰**

(Wang Shi-chien) 外交部長。一八八二年生。湖北省人。ロンドン大學、パリ大學卒。

北平大學法學部長、武漢大學校長を歴任。一九三三年國府教育部長。戰時中は黨宣傳部長。終戦直前外交部長に就任。國民黨中央執行委員で歴史的右派勢力下にリベラリストとして異彩を放ち、五國外相會議や國連に中國首席代表として出席。

**王寵惠**

(Wang Chung-hui) 前國府委員。一八八二年生。廣東省人。テンチン北洋大學卒。日米英佛獨に留學、國民革命運動に参加。一九一二年ナンキン臨時政府の外交總長に就任以來、司法總長、教育總長、二七年ナンキン國府成立とともに司法部長、三七年外交部長、同年十一月行政院副院長。この間國際議會中國全權、國際司法裁判所判事としてしばしば歐米に渡る。中國第一の法律家。

**翁文灝**

(Weng Wen-hao) 中國行政院院長。一八八八年生。浙江省人。ベルギーのルーヴァン大學卒。一九二二年ベイピン地質調査所長、のち清華大學教授、同校々長代理、教育部長を歴任。この間中國代表として太平洋科學會議、萬國地質學會等に出席。三五年行政院秘書長、戰時經濟部長、戰時生産管理局

長。戦後も經濟部長に留任、四六年辭任。資源委員會が經濟部から行政院直屬となり、委員長となる。

**オニール**

ユージン・オニール(Eugene O'Neill) 米國劇作家。一八八八年生。主な作品「皇帝ジョーンズ」「毛猿」「奇妙な幕間劇」。最近十二年間筆を絶つていたが、一九四六年秋沈黙を破つて「氷人きたる」を出しブロードウェイで好評を博した。

**オリオール**

ヴァンサン・オリオール(Vincent Aurio) フランス第四共和國大統領。一八八四年生。一九一四年社會黨代議士、三六年ブルーム人民戦線内閣の蔵相、四五年憲法議會議長、四六年第四共和國憲法制定とともに大統領に就任。社會黨の長老。

**【カ】**

**カイザー**

ヘンリー・カイザー(Henry Kaiser) 米國造船事業家。一八八二年生。寫眞技師から身を起し造船王となる。戦中リバティ型船舶を製作した。

(オーカ)

七

カイナー ラルフ・カイナー (Ralph Kiner) ヌツパ  
ーグ・バイレイツ外野手。一九四七年本塁  
打五十本を放つ。

何應欽 (Ho Ying-chin) 中國國防部長。一八八九年  
生。貴州省人。日本陸士卒。黃埔軍官學校教  
頭、軍政部長を経て一九四〇年參謀總長。四五年中國  
陸軍總司令を兼任。四六年國連軍事參謀委員會中國代  
表として渡米。四八年歸國。第一次、第二次革命、北  
伐、華中の中共討伐、抗日戦を通じて活躍。中國同盟  
會以來の古い國民黨員で蔣介石の右腕。

郭沫若 (Kuo Mo-jou) 中國文學者。一八九一年生。  
四川省人。九州帝大卒。一九二〇年歸國後創  
造社により新文學運動に活躍。北伐に参加し政治宣傳  
科長を経て武漢政府總政治部主任となつたが、國府の  
鎮壓により日本に亡命。三七年歸國、軍事委員會政治  
部第三廳長、文化工作委員會主任。四〇年辭任、創作  
生活に入る。四五年文化使節としてソ連に赴く。民主  
同盟系で現在文化界の大御所。著作「屈原」「孔雀膽」  
等。

ギユット

カミーユ・ギユット (Camille Gutt) 國際  
通貨基金事務理事 (Managing Director  
of the International Monetary Fund) 一八八四年生  
一九三四—三九年ベルギー蔵相。四六年五月現職。

キユーリー

ジョリオ・キユーリー (Joliot Curie)  
フランス物理學者。四六年原子力委員會  
フランス代表、バスツール研究所で科學研究に努力、  
マリイ・キユーリー夫人の長女と結婚。

許憲

(Hu Heng) 南鮮労働黨委員長。一八八七年生。  
咸鏡北道出身、明治大學卒。辯護士を開業万才  
事件の辯護に當る。一九二九年光州學生事件に連坐し  
て下獄。解放後建國準備委員會副委員長。四五年九月  
朝鮮人民共和國結成に當つて國務總理。四六年二月民  
主々義民族戦線議長。同年十一月共産、人民、新民の  
左翼三大政黨が合同して朝鮮労働黨を組織と同時に委  
員長となる。

居正

(Chu Cheng) 中國司法院長。一八八二年生。湖  
北省人。法政大學に留學中中國同盟會に入り終  
始孫文と行動をともした。一九二五年孫文死後國民

(キ)

キーナン

ジョセフ・B・キーナン (Joseph B. Kee-  
nan) 東京裁判主席檢察官。一八八八年生。  
ブラウン、ハーバード兩大學卒。一九三二年の大統領  
選挙にルーズヴェルト氏を支持して以來民主黨ととく  
に密接な關係を持ち、ワシントンで檢察總長補佐を勤  
め、後退官。三九年ワシントン、クリイヴランドで法  
律事務所を開業。四五年十一月現職。

キスレンコ

A. P. キスレンコ (A. P. Kislenko)  
少將。デレヴィヤンコ對日理事會ソ連代  
表の歸國中、代理代表をつとむ。

魏道明

(Wei Tao-ming) 臺灣省主席。一八九七年生。  
江西省人。パリ、コロラド兩大學卒(法博)。  
辯護士を開業、國府司法部關係の官職を歴任のちナ  
ンキン市長。一九三五年大陸報、大晚報、時事新報を  
經營。戰時初期、行政院秘書長。四二年フランス、四二  
年米國各大使。その間國連サンフランシスコ會議中國  
代表。四六年立法院次長。四七年四月現職。

黨右派に接近、西山派を牛耳る。汪兆銘らと策應して  
たびたび反蔣運動を起し監禁さる。三二年國府の政組  
とともに司法院副院長、ついで同院長。四八年初代總  
統候補にあげられたが落選。國民黨常務委員。

キリノ

エルピデオ・キリノ (Epidio Quirino) フイ  
リピン共和國大統領。一八九〇年生。フィリ  
ピン大學卒。一九一七年當時の上院議長ケソンの秘書  
下院議員、上院議員を経て三四年財務長官。タ・マ法  
成立にケソン大統領の經濟顧問として活躍。戰時中は  
山中に逃避、ラウレル政權に全然關係せず。四六年七  
月獨立後フィリピン共和國副大統領。四八年四月十七  
日ロハス大統領の急死により大統領。

キレン

ジェームズ・S・キレン (James S. Killen)  
總司令部經濟科學局勞動課長。一九四七年四  
月日本の勞動組合指導のため、勞動課顧問として來朝  
同年五月コーエン氏の後をついで現職就任。AFLの  
有力組合バルブ・サルファイト・アンド・ペーパーミ  
ル・ワーカーズの副委員長。戰時中、戰時生産局で勞  
働、人的資源の問題を擔當。

(キ)

金科奉

(Kim Tu-pang) 北鮮人民會議々長。金日成大學總長兼任。一八九〇年生。慶尙南道出身。諺文學者、歴史學者として有名。一九一九年万才事件に關係、上海に亡命、韓國臨時政府に参加、上海仁成學校長となる。四〇年重慶より延安に移り、朝鮮獨立同盟主席。解放後歸國して新民黨を組織。四六年七月共黨と合併して北鮮労働黨委員長。四六年二月北鮮臨時人民委員會成立とともに副主席となり現職。

金九

(Kim Koo) 韓國獨立黨々首。一八七六年生。黃海道出身。十九才のとき日本憲兵を殺して投獄されて以來反日運動に終始し、一九一二年寺内總督暗殺を企て入獄、のちシヤンハイに亡命。韓國臨時政府に加わり事務總長、國務總理を歴任、臨時政府主席となる。解放後歸國、韓國獨立黨々首。李承晩と行動をとるに最後右翼の中心。四七年十一月以來單獨選挙反對を主張し李承晩と袂別。四八年四月南北鮮政黨代表連合會議に出席。

キング

ウイリアム・マッケンジー・キング(William Mackenzie King) カナダ首相。一八七四年

頭である。

金日成

(Kim Il-sun) 北鮮人民委員會委員長。一九一二年生。平安北道出身。滿州吉林の中學卒業後抗日獨立運動に投じ、三四年頃から鮮滿國境地帯でゲリラ戦に活躍。ソ連に入り赤軍士官學校卒。獨ソ戦に参加す。解放とともに歸國、北鮮共產黨書記長。四六年二月北鮮臨時人民委員會委員長、北鮮労働黨副委員長北鮮民主義民族戦線議長を兼任、土地改革、重要産業國有化等を断行。北鮮のスターリンの存在。

〔ク〕

クオン・アパイウオン

(Kuangs Aphaiwong) シヤム民主黨々首。一九〇二年カンボジャ王國バクタンバン領主の家に生る。フランス留學、電氣工學を専攻。シヤム立憲革命に参加。第二次、ボン内閣無任所相、第一次ビボン内閣無任所相、交通相、商務相歴任。四三年辭職。人民議會副議長。四四年ビボン内閣辭職後終戦まで首相。四七年十一月ビボン元帥のクーデターの結果、内閣組織。四八年四

(キーク)

10

生。首相として廿一年、自由黨々首として廿七年の經歷をもつ。

金奎植

(Kim Kyu-sik) 前南鮮臨時立法議院議長。一八七八年生。京畿道出身。南鮮政界右翼中の自由派の代表人物。米國に留學哲學博士の學位を得、日韓併合後海外で獨立運動に活躍。一九一九年シヤンハイ假政府に参加、バリ平和會議に朝鮮代表として出席、外務總長副主席となる。四五年歸國後、左翼の呂運亨と左右合作工作に乘出し政界の中心人物となる。四七年十一月以來金九とともに南鮮單獨選挙反對運動をはじめ民族自主連盟を組織。四八年四月金九と南北鮮政黨代表連合會議に出席。

金性洙

(Kim Sum Su) 韓國民主黨々首。一八九二年生。全羅北道出身。早稻田大學卒。中央高普校長を経て多年普成専門校長の職にあり、一時東亞日報社長を兼任。終戦後宋鎮禹等と韓國民主黨を結成。四五年十二月宋鎮禹の暗殺後黨々首。民主黨は民族資本家、地主の支持を得ているが、氏の實弟は朝鮮紡績社長で、いわゆる朝鮮四大財閥の一である全羅財閥の巨

月辭職。

クサン

ヌエン・イアン・クサン(Nguyen Van Xuan) ヲトナム臨時中央政府大統領。一八九二年生。コーチシナ出身。フランス國籍。フランス陸軍理工科卒業後フランス軍に入り第一次大戦で殊勲を樹てた。四七年代將に昇進。のちコーチシナ・ホアチ臨時政府副主席兼國防相、コーチシナ臨時政府大統領を経て四八年五月現職。漢字名阮文春。

クラーク

トム・クラーク(Tom Clark) 米検事總長。ス州出身。一九三八年検事總長補。四三年検事次長を経て四五年現職。

クリップス

サー・スタッフォード・クリップス(Sir Stafford Cripps) 英蔵相(Chancellor of the Exchequer)。一八九九年生。一九三一年労働黨下院議員。四〇―四二年駐ソ大使。四二年十二月國重尙書、航空機製作相を経て四五年商相。四七年の内閣改造に伴い現職就任。

クリバラニ

ジョー・C・クリパニ (J. C. Kripalani) 元国民会議派議長。連合州出身。ガンジのアメリカダバッド道場を経て永くインド国民会議派の中堅幹部として活躍。会議派本部書記長を経て一九四二年八月にはじまつた「英勢力撤退要求」の非協力運動を会議派議長として指導。インド分割獨立問題にもガンジの腹心として会議派を守つた。四七年十一月會議派出身のインド中間政府關係の會議派無視に憤慨して辞任。

グリーン

ウィリアム・グリーン (William Green) 米國労働總同盟 (AFL) 會長。一八七三年生。炭礦夫出身。サミエル・ゴンバースの死後一九二四年 AFL 二代目會長となる。

クルーグ

ジュリアス・A・クルーグ (Julius A. Krug) 米内務長官。一九〇七年生。三八年テネシ一河谷開發局を経て、四六年内務長官就任。

クレイ

ルシアス・クレイ (Lucius Clay) ドイツ占領米軍政長官。陸軍大將。一八九七年生。一九一八年陸士卒。三八年比島軍參謀。今次大戦にはアイ

ゼンハワー元帥とともに歐州戦線に活躍。四七年マクナリーニ大將の後を繼いで現職。

クレイマー

ジャック・クレイマー (Jack Kramer) 米國庭球選手。一九四六—四七年全米シングルス選手權獲得。

クレメンチス

ウラジミール・クレメンチス (Vladimir Clementis) チェコスロヴァキア外相。マサリック外相の自殺にともない一九四八年三月次官から昇格。

グロムイコ

アンドレ・グロムイコ (Andrei Gromyko) 外務次官。一九〇八年生。白ロシアのミンスク出身。經濟専門學校卒。外務省米國局に勤務。米大使館參事官を経て、四三年リトヴィノフに代つて駐米大使。四六年ノヴィノコフに席を譲り國連常任代表。四八年マリクと交代。

ケナン

ジョージ・ケナン (George Kennan) 米國務省政策企畫委員長 (Chairman of the Policy

Planning Board) 一九〇七年生。プリンストン大學卒。國務省に入り、歐州各地に勤務。三三年米ソ國交再開以來ソ連専門の外交官として活躍。ヤルタ、ポツダム會議のほかモスクワ外相會議にも出席。四七年マ

ーシャル國務長官の就任と同時に政策企畫委員長。四八年三月日本を訪問。

ケラー

ヘレン・アダムス・ケラー (Helen Adams Keller) 盲啞の婦人教育家。一八八〇年生。三重苦の聖女として知られる。

ゲルハルゼン

エイナル・ゲルハルゼン (Einar Gerhardsen) ノルウェー首相。一八九七年生。道路工夫出身。一九二五年労働黨オスロー地區書記長、オスロー部長、黨書記長を経て第二次大戦では獨軍進駐と同時に反獨地下運動に活躍、四一年逮捕。四五年五月釋放、首相就任。

【ク】

顧維鈞

(Ku Wei-chun) 駐米大使。一八八七年生。江蘇省人。コロンビア大學卒。哲學博士。駐メ

(ケーゴ)

キシコ公使を経て卅二才でパリ講和會議に全權委員として出席。國際連盟中國代表、北京政府外交總長、國務總理を歴任。一九三一年國府改組とともに外交部長。戦時中は駐英大使。終戦後現職。

コクトー

ジャン・コクトー (Jean Cocteau) フランスの詩人、劇作、小説家。一八九二年生。最近は映畫界で活躍している。作品映畫「美女と野獸」、バレエ「ある男の死」等。

吳國楨

(Wu Kuo-cheng) 上海市長。一九〇三年生。湖北省人。天津南開大學、米國グリーンネル大學、プリンストン大學卒。在米中、學生同好會で宋子文宋美齡に認められ、湖北省印花局長を経て三二年漢口市長、武漢陥落後重慶市長。ついで宋子文外交部長の下に次長をつとめ、のち國民黨宣傳部長。終戦後上海市長。

孔祥熙

(Kung Hsiang-shi) 滯米中。一八八七年生。山西省人。夫人宋靄齡は宋三姉妹の長姉。米國オベリン大學、エール大學卒。法博。孫文の革命運動に投じ一九一三年孫文とともに來日、歸國後閩錫山

の山西模範省建設を援助。實業部長、財政部長、行政院副院長、中央銀行初代總裁などを歴任。宋子文とともに浙江財閥の有力者で中國財政金融の權威者。米國の對華援助獲得に活躍。

顧祝同

(Ko Chu-tung) 參謀總長。一八九三年生。江蘇省人。保定軍官學校卒。蔣介石の腹心として一九二八年以來中共掃討、地方軍閥の反亂鎮定に當る。三五年以來軍政部次長、貴州省主席、西安行營主任。抗日戰中第三戰區司令長官、東南行營主任を歴任。終戰後徐州綏靖公署主任、四六年六月陸軍總司令、四八年五月現職。

胡宗南

(Hu Tsung-nan) 西安治安主任。一八九五年生。浙江省人。黃埔軍官學校卒。一九三九年以來第十七集團軍司令、第八戰區副司令、第一戰區司令長官を歴任。國府軍中の最精銳軍を擁しているが對日戰中専ら中共監視の任に就く。終戰後現職に就任。四七年三月中共の首都延安を攻略。四八年四月延安を放棄。

ゴットワルト

クレメント・ゴットワルト (Klement Gottwald) チェコスロヴァキア首相。一八九六年生。一九二〇年チェコスロヴァキア民主黨入黨。二一年共產黨入黨以來黨執行委員長、コミンテルン中央執行委員歴任。三九年獨軍進駐と同時にモスクワへ亡命、四五年歸國。四六年首相。

胡適

(Hu Shi) 北京大學校長。一八九一年生。安徽省人。米國コロンビア大學卒。歸國後北京大學教授。五四運動を指導。白話文學を提唱し文學革命に成功。中國新文化運動の中心となる。自由主義的文化人。一九三八年駐米大使、歸國後北京大學校長。四八年の國民大會に當り蔣主席は博士を總統に推薦。著書「胡適文存」「中國哲學史大綱」等。

吳鐵城

(Wu T'ieh-cheng) 國民黨秘書長。一八八五年生。廣東省人。米國で商業に従事。一九一一年歸國して革命運動に投じ二七年孫文の廣東大元帥府參謀、北伐には程潛の下に師長として參加。三十年北平に反蔣政府樹立されるや蔣介石代表として奉天に赴き張學良の抱込みに成功。上海事變の時の上海市評議會議長。四七年制憲會議議長。四八年一月獨立とともに初代大統領。

長。三七年廣東省主席を経て現職。

吳鼎昌

(Wu Ting-chang) 總統府秘書長。一八八三年生。四川省人。東京高等商業學校卒。銀行業に従事、鹽業銀行頭取、上海四銀行準備庫總理。一九三五年實業界日本視察團長として訪日。三六年實業部長。事變後貴州省主席を経て現職。

【サ】

サイミントン

スチュアート・サイミントン (Stuart Symington) 米空軍長官。一八九五年生。實業界を経て今次大戰中陸軍省の航空技術顧問。四六年陸軍次官補。四七年新設の空軍省初代長官。

サイヤン

ルイ・サイヤン (Louis Sallant) 世界労働連盟書記長。一八九七年生。フランス労働總同盟書記長をつとめたが四八年五月辭任。

サオ・シユエ・タイク

(Sao Shwe Thaik) ヌルン連邦大統領。一八九八年生。シャン連合州土侯中の第一人者で、第二次大戰中、中東方面に連合軍將校として従軍。戰後シャン連合州最高

クレメント・ゴットワルト (Klement Gottwald) チェコスロヴァキア首相。

一八九六年生。一九二〇年チェコスロヴァキア民主黨入黨。二一年共產黨入黨以來黨執行委員長、コミンテルン中央執行委員歴任。三九年獨軍進駐と同時にモスクワへ亡命、四五年歸國。四六年首相。

胡適

(Hu Shi) 北京大學校長。一八九一年生。安徽省人。米國コロンビア大學卒。歸國後北京大學教授。五四運動を指導。白話文學を提唱し文學革命に成功。中國新文化運動の中心となる。自由主義的文化人。一九三八年駐米大使、歸國後北京大學校長。四八年の國民大會に當り蔣主席は博士を總統に推薦。著書「胡適文存」「中國哲學史大綱」等。

吳鐵城

(Wu T'ieh-cheng) 國民黨秘書長。一八八五年生。廣東省人。米國で商業に従事。一九一一年歸國して革命運動に投じ二七年孫文の廣東大元帥府參謀、北伐には程潛の下に師長として參加。三十年北平に反蔣政府樹立されるや蔣介石代表として奉天に赴き張學良の抱込みに成功。上海事變の時の上海市評議會議長。四七年制憲會議議長。四八年一月獨立とともに初代大統領。

評議會議長。四七年制憲會議議長。四八年一月獨立とともに初代大統領。

ザポトツキー

アントニン・ザポトツキー (Antonin Zapotocky) チェコスロヴァキア副首相。一八八四年生。労働總同盟書記長。

サラザール

アントニオ・デ・サラザール (Antonio de Oliveira Salazar) ポルトガル首相。一八八九年生。一九三二年首相兼藏相。三六年陸相。外相を兼攝。現在は首相専任。

サリヴァン

ジョン・サリヴァン (John Sullivan) 米海軍長官。一八九一年生。財界出身。財務次官補、海軍次官補。同次官を経て四七年新制度の海軍長官に就任。

サンガー

マーガレット・サンガー (Margaret Sanger) 米國女流産兒制限運動家。一八八三年生。米國産兒制限連盟會長。

【シ】

シーボルド

ウィリアム・J・シーボルド (William J. Sebald) 總司令部外交局長兼對日理事

會議長。一九〇〇年生。米海軍士官學校卒。メリーランド大學で法律を専攻。二五年から四年間米海軍語學將校として東京勤務。三三三三九年東京で法律事務所を開設。戰爭中米海軍總司令部に勤務、終戰當時海軍大佐。四六年再び來日、外交局長。アチソン大使の死後現職。

ジイド

アンドレ・ジイド (André Gide) フランス小説家、批評家。一八六九年生。一九四六年度ノーベル文學賞受賞、主な作品「背徳者」「狭き門」「田園交響樂」「架空のインタージュエツ」。

シエイク

アブダラ・シエイク (Abudulla Sheikh) カシミール政府首相。カシミール王國內の封建制打倒のカシミール人民會議の指導者で「カシミールの獅子」といわれた。第二次大戦勃發とともに入獄。一九四七年十月サー・ハリ・シン藩王のインド連邦へ

の加入決定に反対した人民運動によつて獄舎から解放。ネール・インド連邦首相の知遇に感じてハリ・シン藩王と妥協、臨時政府首相として自由カシミール政府に對抗し王國の改革に努力。

シエンノート

クレア・シエンノート (Claire L. Chen-hait) シエンノート空輸會社社長。一八九〇年生。一九三五年米陸軍少佐、三七年退役、中國で義勇航空隊「空飛ぶタイガース」を組織。四二年在華米第十四航空隊司令、四三年少將。四五年退役空輸會社を設立、アンラ物資輸送に従事。

ジャクソン

ウィリアム・ジャクソン (William Jackson) 全米商業會議所會頭。一八八六年生。アレックス・ジャニー (Alex Janny) フランス自由型水泳選手。一九二八年生。四七年四百米四分卅五秒二を出し古橋の世界記録を破る。

ジャニー

アミール・シャリフディン (Amir Shafiqudin) 前インドネシア共和國首相。インドネシア社會黨左派領袖。一九〇六年生。オランダのライデン大學卒、スマトラで辯護士。日本

占領時代共產主義者のかどで入獄。戦後シャリル氏とともに社會黨を組織。四五年十一月以來シャリル内閣の副首相として情報相、國防相歴任。四七年六月首相に就任。四八年一月辭職。

シャリル

スタン・シャリル (Sutan Sjahrir) インドネシア共和國元首相。インドネシア社會黨黨首。一九〇九年生。オランダに留學、歸國後民族運動に挺身、三二年バンダ島に流される。戦時中青年教育に専心。戦後社會黨を結成、四五年十一月首相。四七年六月辭職。協調的右翼社會主義者。

シュートマン

ロベール・シュートマン (Robert Shuman) フランス首相。一八八七年生。一九四〇年ベタン内閣の國務次官、獨軍に捕われたが脱走して反戦運動に協力。解放後は人民共和派幹部、四五年蔵相。四七年十一月首相。

シュウエルニク

ニコライ・シュウエルニク (Nikolai Shvernik) ソ連最高會議幹部會議長 (President of the Supreme Council)。一八八八年生。金屬労働者出身。一九〇二年共產黨入黨。二二―二五

年労働農民人民委員、三〇年全ソ連労働組合書記長兼共產黨書記局員、四六年四月カリニン死後最高會議幹部會議長。

シュウエレンバック

ルイス・シュウエレンバック (Lewis Schwellenback) 米労働長官。一八九四年生。三五一四〇年上院議員、法學博士。四五年七月現職。

ジュオー

レオン・ジュオー (Leon Jouaux) 前フランス労働總同盟 (CGT) 書記長。一八七八年生。

周恩来

(Chou En-lai) 中共中央委員。一八九六年生。江蘇省人。日本、獨、佛に留學、テンチン南開大學修學。一九二四年歸國中共入黨。黄埔軍官學校政治部主任。南昌暴動、廣東暴動に参加。三六年西安事變の解決に努力。日華事變には國府軍事委員會政治部副部長。四〇年エンアンに引揚ぐ。終戦後中共代表として國共會談に活躍。軍事三人委員會委員、政治協商會代表歴任。夫人鄧穎超は中共中央候補委員で有名な婦人運動指導者。

朱家驊

(Chu Chia-hua) 行政院教育部長。一八九二  
年生。浙江省人。ベルリン大學卒、地質學博  
士。一九三〇年中央大學校長、交通部長、中央研究院  
總幹事を経て三二年浙江省主席。日華事變後國民黨組  
織部長。四四年陳立夫と交替して教育部長に就任。C  
系の中心人物。

朱學範

(Chu Hsueh-fan) 中國労働協會理事長兼世界  
労働副會長。滬信關係労働者出身。一九三五  
年労働協會を創立。抗戦中は労働者を率い忠義救國軍  
を指揮しシヤンハイ地區を遊撃。左傾し、終戦後労働  
協會と解放區労働組合を合流させて國民黨の彈壓を受  
け、四六年十一月ホンコンに亡命。十二月反對派に襲  
われ重傷を負う。世界労働連には四五年のロンドン會議  
で副會長に選出、以來ブラーグ、モスクワ、パリ會議  
に出席。四八年三月歸國ハルビンから反蔣聲明を發す

朱世明

(Chu Shih-ming) 外交部顧問。陸軍中將。一  
九〇二年生。清華大學、米マサチューセツ工  
藝學校卒。軍人となり、黃埔軍官學校教官、米、ソ各  
駐在武官を経て三九年外交部情報局長。戦時中連合國

の重要國際會議、日本降伏調印式に中國代表として  
参列、戦後初代對日理事會中國代表兼駐日中國代表團  
長。四七年四月辭任、現職就任。

ジュダノフ

アンドレイ・ジュダノフ (Andrei Dzu-  
danov) ソ連共產黨政治局員。一八九六年  
生。

朱德

(Chu Te) 人民解放軍總司令。一八八六年生。  
四川省人。一九一一年雲南講武堂卒。二二年ベ  
ルリンに留學。中共に入黨。北伐、南昌暴動に参加。  
紅軍第九軍副軍長、二八年工農紅軍第一師長、江西で  
毛澤東の農民隊と合流共產軍を創設、紅軍總司令。の  
ち國共合作により第八路軍の第十八集團軍總司令、三  
九年第二戰區副司令長官、四七年三月國共分裂し人民  
解放軍總司令となる。中共中央委員。

シュラム

エミル・シュラム (Emil Schram) ヌー  
ヨーク株式取引所會頭。一八九三年生。

シヨージ

ジョージ・バーナード・シヨージ (George  
Bernard Shaw) 英國の劇作家、批評家、社  
會主義者。一八五六年生。一九二六年ノーベル賞を受

く。代表作「愉快不愉快」「人と超人」「メトセラへ  
歸れ」「シーザーとクレオパトラ」等。

シヨウ

パトリック・シヨウ (Patrick Shaw) 在日オ  
ーストラリア代表團々長兼對日理事會英連邦  
代表。一九一四年生。メルボルン大學卒。四〇年三等  
書記官として日本駐在。大戦中ニュージラント駐在高  
等辨務官事務局長、駐華公使館一等書記官、四七年六  
月本省太平洋部長、同年九月現職に就任。

シヨエロフ

ミカイル・A・シヨエロフ (Mikha-  
il A. Sholokhov) ソヴエト小説家。一  
九〇五年生。代表作「靜かなるドン」。

ジヨーン

プーラン・ジヨーン (Pooran Chandra Jo-  
shi) 前インド共產黨書記長。ボンベイ出身  
一九四一年インド共產黨が合法化されて以來書記長。  
戦時中會議派の反英非協力運動に反對、インド政廳と  
協力、黨勢の擴張に努む。四八年その合法日和見主義  
を批判されて辭職。後任はナナ・デヴィ (Nana Devi)。

蔣經國

(Chiang Ching-kuo) 前東北行營外交特派員  
一九〇六年生。蔣介石長男。長じて父と對立、

二十歳のとき獨斷でモスクワに赴き共產教育を受け、  
蔣の對中共彈壓を非難、事變以來歸國して蔣に協力、  
三民主義青年團幹事、江西省政府委員などをつとむ。  
終戦後外交特派員として滿州に派遣、不成功のため四  
七年辭任。

蔣介石(中正)

(Chiang Kai-shek) 中國總統。一八八  
六年生。浙江省人。保定軍官學校卒。  
一九〇七年日本陸軍士官學校修學、高田野砲連隊勤務  
中歸國して第一革命に参加、失敗して上海に潜居。二  
三年ソ連に留學。二四年黃埔軍官學校を創設。二六年  
中山艦事件を契機に國民黨内の共產派をおさえて革命  
軍總司令に就任。北伐を開始して武漢、上海、南京を  
占領、ナンキン政府を樹立。ついで武漢政府とナンキ  
ン政府の合體をはかるため下野。二八年國民革命軍總  
司令に復任、北伐を完成、國民政府主席に就く。三一  
年再び下野。三二年軍事委員長兼參謀總長、三五年行  
政院長を兼任、三六年西安で張學良に監禁された。三  
七年對日抗戰を開始、容共政策をとる。四三年林森死  
後國民政府主席。四八年初代總統、國民黨總裁。



商震

(Shang Chen) 駐日中國代表團々長。一八八四年生。河北省人。ペイピン陸大卒。河北省山西省各主席を歴任。一九三〇年閻錫山の反蔣運動の際蔣陣營に入る。對日戦直前軍事委員會辦公署主任、戰時中湖南、江西方面司令官。戰後國連安保理事會參謀長會議中國代表兼駐米中國軍使節團々長として渡米。四七年三月歸國。同年四月現職。

蔣廷黻

(Chang Ting-fu) 國連中國代表。一八九五年生。湖南省人。一九一二年コロンビア大學卒。一八年渡佛、翌年再びコロンビア大學に戻る。哲學博士。テンチン南開大學、ペイピン大學の歴史學教授を兼任。三四年ソヴェト、歐州を訪問、中ソ關係を研究。三六年ソヴェト大使、行政院祕書長、中國善後救濟總署々長を経て四六年十月現職、米國に駐在。

邵力子

(Shao Li-shu) 元國府委員。一八八一年生。浙江省人。シヤンハイ復旦大學卒。一九二一年中共結成大會に參畫。二七年より國民革命軍總司令部祕書長、甘肅省主席、陝西省主席を歴任。西安事件で蔣介石とともに監禁。その後國民黨宣傳部長として抗

日宣傳に當る。四〇年駐ソ大使、戦後の國共會議國府側代表、政治協商會議代表。四八年三月國民參政會解散まで同會祕書長。

徐傳霖

(Hsu Fu-lin) 民主社會黨副總裁。宣傳部長。一八七〇年生。廣東省人。日本法政大學卒。民國革命に参加。北京國會議員、のち官界に入る。三〇年國家社會黨創設とともに同黨參加。四六年同黨が民主社會黨に改組のとき宣傳部長となる。四七年六月國府委員。今次國民大會で黨から副總統候補に推薦。

ジョンストン

(Eric Johnston) エリック・ジョンストン (Eric Johnston) 米國映畫製作協會々長。一八九六年生。一九四二年米國商業會議所會頭。四五年退職して現職。

シン

(Sardar Baldev Singh) サルダル・バルデブ・シン (Sardar Baldev Singh) インド連邦國防相。パンジャブ州大地主の家に生れ、シーク族の團體アカリ派のメンバー。會議派の熱心な支持者でインド連邦國防擴充の主唱者

シンクレア

(Upton Sinclair) アプトン・シンクレア (Upton Sinclair) 米國の小説家。一八七八年生。代表作

「ジャングル」「メトロポリス」「兩替屋」「石油王」等。

ジンナー

(Mahomed Ali Jinnah) マホメッド・アリー・ジンナー (Mahomed Ali Jinnah) パキスタン總督。一八七六年生。英國に留學法曹家として發足。一九一六年以來インド回教徒連盟總裁。この間インド中央立法議會議員四七年八月インド分割獨立とともにパキスタン總督。四八年二月回教徒連盟總裁を辭任。

【ス】

スカルノ

(L. R. Soekarno) I. R. スカルノ (L. R. Soekarno) インドネシア共和國大統領。一九〇二年生。パンドン工科大学卒。ハッタ氏とならぶインドネシア民族獨立運動の巨頭。反オランダ運動で入獄數回。三一年インドネシア黨を組織、三三年小スンダ島フローレンスに流さる。日本軍のジャワ占領當時中央參議院議長。四五年八月インドネシア獨立を宣言して大統領に就任。

スターリン

(Joseph Vissarionovich Stalin) ヨシフ・ヴァイサリオノヴィチ・スターリン (Joseph Vissarionovich Stalin) (ジョーシ)

連閣僚會議議長(首相)(Chairman of Council of Ministers) 一八七九年生。靴工の家に育ちチプリスの神學校に入ったが學生革命團體を指導して放校され、ロシア社會民主労働黨に入黨。一九〇八年、一〇年、一三年三回にわたり逮捕流刑。一七年の革命で釋放。レーニンとともに十月革命を指導。二四年レーニン死後共產黨書記長に就任。

スタッセン

(Harold Stassen) ハロルド・スタッセン (Harold Stassen) 元ミネソタ州知事。一九〇七年生。ミネソタ大學卒。セント・ポール市で辯護士開業。三〇年州検事に當選、三八年知事に當選、四三年まで在職。今次大戰で海軍少佐となり、ワシントンに數ヶ月勤務の後ハルゼー提督の參謀として旗艦レキシントンに乗組。四七年スターリン首相と會見。大統領選挙立候補を聲明。ルーズヴェルト時代共和黨でありながらニューディールを支持。

ストコフスキー

(Leopold Stokowski) レオポルド・ストコフスキー (Leopold Stokowski) 米國音樂指揮者。一八八二年生。現在フィラデルフィア交響樂團指揮者。

(ス)

ストライク

クリフォード・ストライク (Clifford Strike) 米國海外調査相談所長。一八九五年生。アイダホ州電力會社理事長、エジソン電氣研究所アイダホ州委員をつとめ、一九四七年日本に派遣され對日賠償問題を調査「ストライク報告書」を陸軍省に提出した。

スチユアート

レイトン・スチユアート (John Lei-ston Stuart) 駐華米國大使。一八七六年中國杭州に生る。本國で勉學ののち一九〇五年長老教會宣教師として中國に歸り、傳道に専心。一九年以來三十年間燕京大學校長。太平洋戰爭勃發とともに日本軍に抑留、終戦後解放。四六年六月駐華大使就任。マーシヤル特使とともに國共調停に盡力。華名を司徒雷登という。

スナイダー

ジョン・W・スナイダー (John W. Snider) 米財務長官。一八九七年生。テネカンソー州出身。銀行界を経て一九四五年七月戦時動員再轉換局長官から現職に就く。

111

スパーク

ポール・アンリ・スパーク (Paul Henri Spaak) ベルギー首相兼外相。一八八九年生。一九三五年運輸相、三六年外相。四〇年獨軍侵入により亡命。四五年歸國再び外相。四七年九月首相。四八年四月歐州經濟協力機構理事長に就任。同年五月辭表提出。

スフォルツァ

カルロ・スフォルツァ (Count Carlo Sforza) イタリア外相。一八七三年生。外交官出身。一九二〇年外相。二二年反ファシスト黨黨首。四七年再び外相。

スマッツ

T. C. スマッツ (T. C. Smuts) 南ア連邦首相兼外相、國防相。一八七〇年生。ケンブリッジ大學卒。辯護士ののち軍人畑に轉じボーア戰爭に参加、終始對英抗爭に専念。一九四二以來首相。

スミス

ウォルター・ビデル・スミス (Walter Bedell Smith) 駐ソ米大使。陸軍中將。一八九六年生。一九四一年統合參謀本部員、四二年歐州派遣軍參謀、四六年一月駐ソ大使。

【七】

聂榮臻

(Nie Jung-chen) 中共中央委員、人民解放軍晋察冀軍區司令。一八九九年生。四川省人。一九二〇—二五年佛、ベルギー、モスクワ留學。歸國後黃埔軍官學校政治部秘書、三〇年河北の中共黨工作を主宰。抗戦中一一五師副師長、晋察冀軍區司令となり中共の模範邊區晋察冀邊區の育成に當る。終戦後國共戦に活躍。四八年五月華北野戦第二集團軍司令。

薛岳

(Hsueh Yueh) 參軍長。廣東省張發奎の廣東クイデーターに参加以來張と行動を共にし、三一年廣東國民政府樹立と同時に軍事委員會委員、廣西陸軍々官學校長。三五年雲南貴州綏靖主任、日華事變當時は湖南省主席、第九戰區司令。終戦後は徐州で掃共戦に活躍。

【ソ】

ソーヤー

チャールズ・ソーヤー (Charles Sawyer) 米商務長官。一八八七年生。一九四四—四(キーン)

五年ベルギー駐在大使。四八年四月ハリマン商務長官の特命移動大使轉出にともない後任となる。

曹禺

(Tiao Yu) 本名萬家寶。劇作家。一九〇九年生。湖北省人。三四年清華大學卒業後劇作をはじめ處女作「雷雨」で一躍文名をはず。三四—三九年復旦大學講師。四〇年中央映畫公司に入り映畫脚本を書く。四八年自作「雷雨」の映畫演出に當る。代表作「日の出」「雷雨」「北京人」「家族」。

宋慶齡

(Sung Ching-ling) 孫文未亡人。一八九〇年生。江蘇省人。宋子文および蒋介石夫人宋美齡の姉、孔祥熙夫人宋靄齡の妹。米國ウエルズレー大學卒。一九一四年日本で孫文と結婚、ともに國民革命に挺身。孫文死後國民黨左派の中心人物、そのため蒋介石と對立。二七年モスクワに外遊、現在ホンコンで國民黨革命委員會に屬す。

宋子文

(Sung Tsu-wen = T. V. soong) 廣東省主席。一八九〇年生。江蘇省人。蒋介石夫人宋美齡の兄。シヤンハイ・セントヨハネス大學卒、米國に留學。浙江財閥と關係深く有数の理財家。中央銀行總裁、

財政部長、行政院副院長、行政院長等を歴任、國連サ  
ンフランシスコ會議中國首席代表。一九四五年八月申  
ソ條約締結の立役者。四七年三月、いわゆる「黄金恐  
慌」の非難を浴び退陣。同年九月現職復歸。

宋美齡

(Sung Mi-ling) 宋家の末妹で、蒋介石夫人。  
一九〇一年生。江蘇省人。米國ウエルズレー

大卒。二七年蒋介石と結婚。二九一三二年國府立法院  
委員、三七一三八年航空委員會委員長。三六年の西安  
事件にはドナルド・ドナルド一人を伴い西安に乗込み蔣氏  
を救出。戦時中渡米、援蔣強化に努力。現在は社會事  
業に従事。

曾琦

(Tseng Chi) 中國青年黨\*首。四川省人。日本  
中央大卒、フランス留學。一九二三年パリで  
中國青年黨を結成、歸國後機關誌「醒獅」を發行。二  
七年國府の彈壓により一時解散、二九年復活、三五年  
人民戦線に合流。戦時中は國民參政院政治協商會議に  
黨代表として出席。四七年四月國府委員。

孫科

(Sun Ko-Sun Fo) 立法院長。中國五、五憲法  
草案起草者。一八八七年生。廣東省人。孫文の

長男。米國留學。一九一七年孫文に従い廣東軍政府組  
織に活躍、のち國民黨交通、財政、鐵道各部長歴任。  
三一年反蔣運動を起し廣東に國民政府を樹立。後日南  
京派と妥協、行政院長に就任。三二年立法院長、四六  
年副主席兼任。四八年五月立法院長に當選就任。

孫立人

(Sun Li-jen) 中國陸軍副總司令兼訓練司令。  
一九〇〇年生。清華大卒。二七年渡米、  
ジニア陸軍學校に學ぶ。抗日戦開始當時は税警團に屬  
し蘇州河の戦闘に参加。四二年師團長としてビルマ戦  
線に出動。四三年第二十集團軍長としてビルマ奪回戦  
に活躍。四六年新一軍長として滿州に進駐、のち東北  
保安副司令官。四七年現職。政府軍中有數の機械化部  
隊指揮官。臺灣で政府軍の訓練にあたる。

【タ】

戴傳賢

(Tai Chuan-hsien) 考試院長。一八八二年生。  
浙江省人。一九一三年孫文と渡日、日本國際  
學院卒。黄埔軍官學校教官、國民黨中央執行委員を歴  
任。武漢南京政府合體後國民政府委員、三八年考試院

長を兼ね、國民黨常務委員知日派。著書「日本論」

タキン・スエ

(Thakin Soe) ビルマ人(赤旗)共產黨  
書記長。英國治下のビルマ軍中佐、日  
本占領下で軍隊の抗日化に努力。一九四五年中部ビル  
マで抗日反亂を組織。土地革命の武装反亂を指導、四  
七年非合法の故をもつて逮捕されたが脱獄、四八年三  
月ラングーンで再び逮捕。

タキン・タント

(Thakin Tawng Tun) ビルマ共  
産黨書記長。一九〇九年生。ラン  
グーン大學生の反英運動を指導。大戦中はバーモ政権  
の農務相、四四年物資需給相。反日地下運動と關係、  
四五年三月抗日反亂とともに地下に潜入。四七年一月  
ビルマ獨立以來反政府を表明、再び地下に潜入。故オ  
ンサン將軍の義兄。

タキン・ヌー

(Thakin Nu) ビルマ連邦首相。ラング  
ーン大卒。太平洋戦前遣華使節とし  
て重慶訪問。一九四三年バーモ政権の外相。終戦直  
前日本軍から脱出、タキン・ミヤとともに社會黨を率  
い反ファシスト連盟に参加。制憲會議議長、四七年中

間政府副首相、四八年一月ビルマ獨立とともに初代首  
相。

タキン・ミヤ

(Thakin Mya) ビルマ社會黨領袖。一  
九〇三年生。國民學校制度確立に努力  
タキン黨に入り下院議員。太平洋戦の直前シヤム國に  
潜入日本軍に協力、四三年バーモ政権副首相。戦後  
社會黨を創立、黨首。四六年ビルマ中間政府の内務兼  
司法相、憲法起草委員長。

ダグラス

ルイス・ウイリアムス・ダグラス (Lewis  
Williams Douglas) 駐英米國大使。一八  
九四年生。ハーバード、プリンストン兩大卒。一九  
四〇年ニューヨーク相互生命保險社\*長。四四年財  
務次官補、四七年一月駐英大使。

タフト

ロバート・タフト (Robert A. Taft) 米共和  
黨上院議員。一八八九年生。第廿六代大統領  
ウイリアム・タフトの長男。エール、ハーバード兩大  
卒。一九三八年以來上院議員。四七年大統領選挙立  
候補を聲明。トルーマン大統領の外交財政\*策に反対  
とくに對外援助には眞正面から反對している。タフト

・ハートレー法の提案者。

タムロン・ナワサワット

(Thamrong Nawasawat)

少将。戦前と戦時中のピブン内閣の法相、外相。一九四四年内閣崩壊とともに下野。終戦後シヤムの元老ブルジ・パノムヨン博士と提携、立憲戦線黨を組織、選挙で第一黨獲得、内閣を組織。四七年十一月ピブン元帥のクーデターによつて下野。

タルク

ルイス・タルク (Luis Taruc) フイリピン。

ハクバラハップ農民武装団首領。一九一五年生。戦前労働組合組織者として活動、四二年比島戦當時抗日武装団ハリバラハップを組織。戦後目標を農民解放に轉じロハス政府と武力抗争をつゞく。四六年四月下院議員となつたが反対派のため登院を停止さる。

【チ】

チーフリー

ジョセフ・チーフリー (Joseph Chieffley)

オーストラリア首相。一八九〇年生。機關車運轉士出身。一九二九年労働黨下院議員、スカリ

ン内閣の国防相、三九年軍需相、四二年カーティン内閣の蔵相、四五年七月首相。

チト

ヨシフ・ブロク (Josip Broz "Tito") (俗稱チト)

チトー) ユーゴスラヴィア首相兼国防相。一八九三年生。金屬工出身。第一次大戦に参加、第二次大戦には反獨逸軍隊を組織。四三年解放委員會議長、四五年現職に就任。

チャーチル

ウィンストン・チャーチル (Winston Churchill) 英保守黨首。一八七四年

生。新聞記者をふりだしに廿六才で下院議員。商相、内相、海相、軍需相、陸相、植民相、蔵相を経て今次大戦では初め海相、チエンパレン内閣の後首相となる。

チヨイ・バルサン

(Choy-Bolsan) モンゴル人民共和

アラト(平民)の出身。外モンゴル獨立運動に参加、二四年外モンゴル獨立後モスクワ大學留學。二五年歸國、元帥、三五年政府副總理、三八年陸相兼内相。四〇年國內大肅正後憲法修正の衝に當る。外務、軍事各人民委員、總軍司令官を兼務。

張嘉璈

(Chang Kia-rgaw) 前中央銀行總裁。一八八

八年生。江蘇省人。現民主社會黨總裁張君勱の弟。日本慶應大學卒。一九一七年中國銀行副經理、三〇年中國銀行總經理、三五年辭任。中央銀行副總裁、鐵道部長、交通部長を歴任。戦後東北經濟委員會主任委員、長春鐵道取締役會長。四七年三月中銀總裁。

張君勱

(Chang Chun-mai) 民主社會黨總裁。一八八

六年生。江蘇省人中銀總裁張嘉璈の兄。早稲田、ベルリン兩大學卒。上海時事新報總經理、國立政治大學校長、燕京大學教授を歴任。一九四四年に國家社會黨を率いて民主同盟に参加。四六年秋同盟を離脱民主社會黨を組織し國民政府に協力。

張群

(Chang Chun) 前行政院々長。一八八八年生。四

川省人。日本陸士卒。第一革命に蔣と共に歸國。一九三〇年シャンハイ市長、のち外交部長。抗戦中は行政院秘書長、國防最高委員會秘書長、四川省主席。國共會談には國府側代表、政治協商會議代表として調整に努力。四七年四月行政院長。四八年五月辭任。

ン内閣の国防相、三九年軍需相、四二年カーティン内閣の蔵相、四五年七月首相。

チト

ヨシフ・ブロク (Josip Broz "Tito") (俗稱チト)

チトー) ユーゴスラヴィア首相兼国防相。一八九三年生。金屬工出身。第一次大戦に参加、第二次大戦には反獨逸軍隊を組織。四三年解放委員會議長、四五年現職に就任。

チャーチル

ウィンストン・チャーチル (Winston Churchill) 英保守黨首。一八七四年

生。新聞記者をふりだしに廿六才で下院議員。商相、内相、海相、軍需相、陸相、植民相、蔵相を経て今次大戦では初め海相、チエンパレン内閣の後首相となる。

チヨイ・バルサン

(Choy-Bolsan) モンゴル人民共和

アラト(平民)の出身。外モンゴル獨立運動に参加、二四年外モンゴル獨立後モスクワ大學留學。二五年歸國、元帥、三五年政府副總理、三八年陸相兼内相。四〇年國內大肅正後憲法修正の衝に當る。外務、軍事各人民委員、總軍司令官を兼務。

張治中

(Chang Chi-chang) 西北治安主任。一八九

一年生。安徽省人。保定軍官學校卒業後黃埔軍官學校學生總隊長。日華事變初期には上海方面指揮官のち湖南省政府主席、軍事委員會政治部長。終戦後國共和平交渉には國府側代表、四五年西北行營主任となり新疆問題の解決に手腕をみせた。

張伯苓

(Chang Po-ling) 南開大學校長。一八七五年

生。河北省人。北洋水師學堂卒。海軍を辭し光緒年間に南開高等學堂を開設、同校を中國一流の大學とした。戦時中は昆明で清華、北平兩大學と西南聯合大學を創設、國民參政員となる。

張瀾

(Chang Lan) 前民主同盟總裁。一八七五年生。

四川省人。日本に留學中同盟會に加入、武昌起義の指導者の一人。一九二〇年四川省長、二八年國立成都大學校長、事變中は參政會委員、三四年民主同盟總裁。四七年國府の彈壓で同盟を解散。

張厲生

(Chang Li-sheng) 行政院內政部長。察哈爾

省人。北伐戦に師長として参加。政治家に轉じ抗日戦開始後軍事委員會政治部副部長、國民黨組織

(チ)

部長、行政院秘書長を経て内政部長就任。CC系の中心人物。

**陳毅** (Chen Yi) 人民解放軍華東軍區司令。湖北省人。黃埔軍官學校卒。北伐に参加、のち紅軍に加わり四川省遊撃中蔣介石軍に捕わる。釋放後フランス留學。三八年新四軍第一師長、四一年皖南事件後新四軍長、終戦後山東軍區司令、四七年八月「南征」に従い舊地盤に歸る。中共中央委員。

**陳啓天** (Chen Chih-tien) 行政院工商部長。一八九三年生。湖北省人。四川、國立中華兩大學教授。中華書局編集長。一九三八年國民參政會創設以來の參政會員。曾琦、舜生らとともに中國青年黨を創始、四七年五月經濟部長。

**陳賡** (Chen Kang) 人民解放軍予陝鄂軍區司令。一九〇四年生。湖南省人。二四年黃埔軍官學校卒。二六年モスクワ留學。南昌暴動に失敗後シャンハイで逮捕。三三年脱獄、紅軍學校長となる。西遷後第一軍團第一師長。抗日戦中は劉伯承軍(百二十九師)の第三八九旅長、四七年八月華中に進軍予陝鄂邊區を樹立

中共中央候補委員。

**陳誠** (Chen Cheng) 前參謀總長。一八九六年生。浙江省人。保定軍官學校卒業後黃埔軍官學校の教官。北伐掃共戦に蔣直系軍人として参加。抗日戦には江防總司令、第九戰區司令官兼湖北省主席、漢口戦當時は武漢防衛司令、軍事委員會の初代政治部長。四〇年第六戰區司令官、軍政部長、四六年參謀總長。四七年東北行營主任を兼任滿州防衛に當る。四八年二月病氣のため東北行營主任を辭任、ついで同年五月參謀總長を辭職。

**陳立夫** (Chen Li-fu) 立法院副院長。一八九九年生。浙江省人。米國ピッツバーグ大學卒。一九二九年國民黨中央黨部秘書長、中央黨部組織部長、組織委員會副委員長、抗日戦中教育部長、四四年國民黨組織部長に再任。四八年五月立法院副院長。國民黨右翼の第一人者でCC系の巨頭。

二八

【ツ】

**ツアルダリス** (Constantin Tsaldaris) ギリシア外相。一八六八年生。

【テ】

**鄭介民** (Cheng Chieh-min) 國防部次長、第二廳長。兼任。國民黨中央執行委員、中將。國府秘密警察機關の首領として知らる。日華事變中は軍事調査統計局長。終戦後は、イピン軍事調處執行部委員、國防部第二廳長を歴任。四八年一月現職就任。

**デイスニー** (Walt Disney) ウォルト・デイスニー (Walt Disney) 米國漫畫映畫製作者。一九〇一年生。「ミッキー・マウス」「ドナルド・ダック」「ジュー・カリオカ」「白雪姫」などの名作がある。

**程潜** (Cheng Chien) 武漢治安主任。一八八一年生。湖南省人。日本陸士卒。一九二三年孫文大本營軍政部長。ナンキン、武漢兩派合體後軍事委員會委員

(ツータ)

日華事變中は參謀次長、國民黨中央執行委員、四八年初代副總統に立候補し惜敗。

**鄭洞國** (Cheng Tung-kuo) 吉林省主席。中將。一九〇九年生。湖南省人。黃埔軍官學校卒。抗戦中第二師長、ついでインド派遣軍司令官としてビルマ戦線に出動。終戦後滿州に派遣され東北保安副司令官、四七年東北行營副主任、四八年三月吉林省政府主席兼任。國民黨中央執行候補委員。

**デイマツジオ** (Joe DiMaggio) ジョー・デイマツジオ (Joe DiMaggio) ニューヨーク・ヤンキースの中堅手、強打者。

**テイラー** (Glen Taylor) グレン・テイラー (Glen Taylor) アイダホ州選出民主黨上院議員。一九〇四年生。二年演劇會社に入り二六年まで興行界を轉々、四〇年上院議員。四八年ウォーレス氏の副大統領候補に立候補。

**デイミトロフ** (Georgi Dimitroff) ゲオルギ・デイミトロフ (Georgi Dimitroff) ブルガリア首相。一八九二年生。労働者出身。十二才のとき印刷工となり組合連

二九

(チー)

動に参加。十八才で共産黨入黨。一九〇八年以來數百のストを指導。四三年までコミンテルン書記長。四六年十月現職就任。

**チ・ガスベリ** アルチーデ・デ・ガスベリ (Aldice de Gasperi) イタリア首相。一八九一年生。苦學して大學を卒業。ファッショ時代はヴァチカン圖書館司書。一九四三年ファッショ崩壊と同時にキリスト教民主黨を結成黨首、四五年六月外相、同年十二月現職就任。四八年四月の總選挙で人民民主戦線を破り第一黨となる。

**デューイ** ジョン・デューイ (John Dewey) 米國の哲學者。一八五九年生。ヴァモント大學、シカゴ諸大學を経て一九〇四年コロンビア大學哲學教授。プラグマティズムを提唱。著書「心理學」「論理學研究」「デモクラシーと教育」など。

**デューイ** トーマス・デューイ (Thomas Dewey) ニューヨーク州知事。一九〇二年生。ミシガン、コロロンビア兩大學卒。辯護士のニューヨーク

州檢事。有名なギヤング事件の檢事に才腕をふるう。四二年ニューヨーク州知事。四四年共和黨の大統領候補に指名され、ルーズヴェルトに敗る。四六年州知事に再選。四八年二月大統領選挙立候補を聲明。

[ト]

**湯恩伯** (Tang En-po) 陸軍副總司令。一八九九年生。浙江省人。日本陸士卒。一九二六年北伐軍に参加。三五年第十三軍長兼陝北剿匪善后辦事處主任。抗戰中上海、南京、漢口戦に參戰、四五年第一戰區副司令長官。終戦のとき第三方面軍司令官として上海で日本軍の武装解除、本國送還に當る。四七年現職。

**董顯光** (Teng Hsien-kwang) 新聞局長。一八八七年生。浙江寧波出身。米國留學。ニューヨーク・タイムス通信員となり一九一一年歸國。一二年北京デリー・ニュース主筆、二六年天津庸報主筆、戰時中國民黨宣傳部副部長、四七年四月國府改選とともに現職。四八年六月政務委員。

**鄧文儀** (Teng Wen-yi) 國防部政工局長。中將。黃埔軍官學校卒。藍衣社の中核である復興社四首領の一人。獨伊留學後三民主義青年團宣傳處副處長、復興社書記。一九三五年ソ連大使館附武官、ドイツ大使館附武官を歴任。抗戰末期より青年軍々長、國防部宣傳局長を経て四八年三月現職、軍事スポーツスマンの役割を擔任。國民黨中央執行委員。

**董必武** (Tung Pi-wu) 中國解放區善後救濟協會(略稱クララ)會長。政治協商會議代表、中共中央委員。一八八六年生。湖北省人。一九一三年法政大學に學び一九年歸國。二一年中共の創立に参加、一全大會代表に選出さる。二八―三二年訪ソ。日華事變中は國民參政員、重慶常駐中共スポークスマン。四五年四月サンフランシスコ會議に中國代表として出席。

**ド・ゴール** シャルル・ド・ゴール (Charles de Gaulle) フランス國民連合總裁。一八九〇年生。陸軍士官學校卒。四〇年陸軍文官。敗戦後ロンドンに自由フランス解放委員會を結成、四五年臨時政府主席。四七年フランス國民連合を組織、總裁に就任。

三〇

**杜聿明** (Tu Yu-ming) 一九〇三年生。二四年黃埔軍官學校卒。三七年南京戦に参加、昆明で米式訓練をうけ四二年第五軍長としてビルマ戦に参加。雲南遠征軍第五集團軍司令、昆明警備司令を歴任。四五年東北保安司令長官として瀋陽接收を指揮、四七年辭任。

**トスカニーニ** アルチロ・トスカニーニ (Arturo Toscanini) 世界的音樂指揮者。一八六七年イタリアに生る。ミラノ、スカラ座の名指揮者とうたわれ、のちニューヨークのメトロポリタン・オペラ劇場に招かれアメリカにあつて活躍。

**ドッド** ノリス・ドッド (Norris Dodd) 國連食糧農業機構事務總長。一八九七年生。一九四五年農務次官補、四六年次官、四七年オア氏の後任として現職就任。

**ドナルドソン** ジェームス・ドナルドソン (James Donaldson) 米郵政長官。一八九八年生。一九四六年郵政次官、四七年十一月ハネガン長官辭任後現職。

三一

トリアツチ

パルミロ・トリアツチ (Palmiro Togliatti) イタリア共産黨書記長。一八九三年生。トリノ大學卒。新聞記者となり社會黨に入黨、第一次大戦後一九二二年社會黨分裂とともにイタリア共産黨を創設。二六年フランスに亡命以來反戦地下運動に活躍、この間しばしばモスクワに亡命。四四年歸國現職就任。

トルーマン

ハリ・S・トルーマン (Harry S. Truman) 米大統領。一八八四年生。ミズーリー州出身。中學卒業後獨學で辯護士試験に合格。裁判所書記、田舎新聞記者を経て第一次大戦のとき野砲學校に學び大戦に参加。後コロラド州の民事區裁判所判事、カンサス市區裁判所判事を歴任。三五年上院議員に當選。戰爭中は軍需生産實績調査委員會の委員長として才腕を振う。四四年大統領の副大統領、四五年四月ルーズヴェルト急死の後を繼いで大統領に就任。

トレーズ

モリス・トレーズ (Maurice Thorez) フランス共産黨書記長。一八九一年生。獨

學で共産主義理論を研究。一九一〇年フランス共産黨を組織。三九一四年モスクワに亡命。フランス解放後歸國。四五年ピドー内閣の副首相、四七年五月共産黨閣僚しめ出して辭職。

ドレーバー

ウィリアム・ドレーバー (William Dreyer) 米陸軍次官。一八九四年生。ニューヨーク大學卒。一九一七年金融界より陸軍に入る。第一次大戦後實業界にもどりナショナル・シティー銀行、バンク・オブ・トラストに勤務。三七年デイルン・リード副社長。今次大戦には代將として各地部隊に勤務。四五年ドイツ占領米軍政府經濟部長、四七年七月陸軍次官。四七年九月在外務部視察旅行の途次訪日。四八年三月産業使節團を率い日本訪問。

ナラヤン

ジャヤ・プラカシ・ナラヤン (Jaya Prakash Narayan) インド社會黨黨首。一九〇一年生。米國ジョン・ホプキンス大學卒。會議派に参加、マルキストとしての立場からネールを支持し、ネール

の主唱した社會主義政策樹立に盡す力となる。三三年會議派内に社會黨を組織し黨首。

ニュージエント

(Donald Ross Nugent) 總司令部民間情報教育局長。海兵隊中佐。一九二三年スタンフォード大學卒。三六―四一年和歌山高商、大阪商大などで講師。軍人としては四一年六月海兵隊入隊、真珠灣、マーシャル群島、マリアナ諸島、硫黄島などの第一線に活躍。四五年九月第五水陸兩用部隊とともに九州に上陸。

ネール

パンジツド・ジャワハルラル・ネール (Pt. J. Jawaharlal Nehru) インド連邦首相。一八八九年生。英國ケンブリッジ大學卒。一九一九年ガンジーの民族運動に参加、二一―三四年前後五年半の入獄生活を送る。二九―三九年三たび國民會議派議長。四六年八月インド中間政府副首相に就任。四七年獨立

【ナ】

とともに首相。

ノールランド

ウィリアム・ノールランド (William Knowland) カリフォルニア州選出民主黨上院議員。一九〇八年生。新聞記者を経て州政界に入り、今次大戦には陸軍人として出征。四六年十一月上院議員。

ノエルベーカー

フィリップ・ノエルベーカー (Philipp Noel Baker) 英連邦關係相。

ナイ

デイヴィッド・ナイ (David Noy) 駐華米軍顧問團團長。少將。一八九五年生。第二次大戦には機械化部隊參謀長として北アフリカ作戦に参加、一九四四―四五年米第六集團軍參謀長、四八年一月現職。ユホ・パーシキヴィ (Juhon Pasikivi) フィンランド大統領。一八三〇年生。帝政ロシアに學び、實業界に入り銀行頭取、輸出協會

【ナ】

理事長を経て國民連合黨幹部。一九三九年以來數次對ソ交渉のため訪ソ、駐ソ大使もつとめ四四年秋ソ連と單獨講和に成功。四六年三月大統領。

**ハースト** ウィリアム・R・ハースト (William R. Hearst) 米國の新聞王。一八六三年生。ハースト系新聞トラストの社長。

**バード** リチャード・バード (Richard Byrd) 米人南極探検家。陸軍少將。一八九〇年生。一九二八年ロツクフェラーの後援で南極探検、二九年三月功により少將昇進。四七年再び南極を探検。

**バー・モ** (Ba Maw) 元ビルマ對日協力政權首相。マハマ黨領袖。一八九三年生。ラングーン大學卒。英佛に留學。インドより分離後初代ビルマ首相に就任、のちシンエタ黨を樹立し黨首。四三年八月對日協力政權の主席。ラングーン陥落後日本に亡命、終戦後ビルマに送られたが英國政府は協力政權の活動を不問に附し釋放。

**貝錫治** (Pei Tei-chi) 駐米中國經濟使節團長。一八九三年生。江蘇省人。蘇州東吳大學、唐山交

て創作活動に入り、「家」「春」「秋」の遺流三部作は壓倒的好評をうけ大家の列に入る。戦後「第四病」「惡園」「火三部作」の諸作を發表。

**日崇禎** (Pai Chung-tsun) 前國防部長。一八八九年生。廣西省人。保定軍官學校卒。國民革命軍參謀長として北伐に参加、ついで第四集團軍前敵總指揮として一九二八年北平に入った。李宗仁らと廣西派の勢力扶植につとめたが、蔣介石とは折合わなかつた。對日戦以來蔣に協力、參謀次長兼軍訓部長のち初代國防部長。四八年五月辭任。

**バタワーズ** ウィリアム・バタワーズ (William Butterworth) 國務省極東局長。一九〇三年生。プリンストン大學卒。國務省に入り、シンガポールの副領事、英大使館書記官、スペイン大使を経て四七年八月極東局長。

**ハッタ** モハマッド・ハッタ (Mohammad Hatta) インドネシア共和國副大統領兼首相。一九〇一年生。オランダのライデン大學に學ぶ。インドネシア民族獨立運動の指導者としてオランダ留學時代から

通大學卒。一九二七年中國銀行經理、四五年二月中央銀行總裁に就任。四七年三月「黄金恐慌」の責任を負い辭任。米國の對華援助計畫の具體化に當り、四八年一月現職に就任。

**バオタイ帝** (Baotai) 前アンナン阮朝第十三代皇帝。一九一四年生。二五年パリ留學中即位。

フランスの指導下にアンナンの近代化につとむ。終戦とともに退位以來ホンコンに亡命。四七年春フランスの指導下にアンナン王朝舊臣、右翼民族主義者、親佛派ヴェトナム人間に同帝の復歸運動起るや、ヴェトナム獨立をめざし四七年末佛印で、四八年一月ジュネーヴでボレール佛印高等辨務官と會談。

**パウケル** アンナ・パウケル女史 (Anna Parker) ルーマニア外相。一八九二年生。一九二〇年共産黨入黨革命運動の前衛として活躍、數回逮捕投獄され、今次大戦中はモスクワ民族解放闘争に参加、解放後共産黨書記長となり、四七年十月外相に就任。

**巴金** (Pa Chin) 本名李希甘。中國小説家。一九〇五年生。四川省人。フランスに留學、シャンハイ

活躍、インドネシア國民黨の創立者。日本軍のジャワ占領時代獨立準備委員長となる。四五年八月末インドネシア共和國獨立宣言とともに副大統領。四八年一月首相を兼任。

**バテル** ヴアラバハイ・J・バテル (Vallabhbhai J. Patel) インド連邦政府内相兼副首相。一八七七年生。アーメダバッドで法律と英語を學び一九一六年政界に入る。ネールとともにガンジの熱烈な追隨者となり民族運動を指導。四六年八月インド中間政府内務長官、四七年八月獨立とともに現職に就任。

**ハムスン** クヌート・ハムスン (Knut Hamsun) ノールウエーの小説家。一八五九年生。一九二〇年ノーベル賞を受く。代表作「飢え」「渡り者」戯曲「國の門にて」「生の戯」「タヤけ」

**ハリソン** ウィリアム・ケリー・ハリソン (William Kelly Harrison) 總司令部賠償局長。代將一八九五年生。一九一七年ウエスト・ポイントの陸軍士官學校、三四年ワシントンの陸軍大學卒。四二―四五年までの間ノルマンジー上陸を敢行した第三十師團



の副師團長。四六年末來日、參謀次長室で賠償事務を專管、四七年五月賠償局設置とともに局長に就任。

ハリマン

アヴェレル・ハリマン(Averell Harriman) 特命移動大使(The Roving Ambassador)

一八九一年生。實業界出身。今次大戦中武器貸與調整官、一九四六年二月駐英大使、九月商務長官、四八年四月歐州復興計畫實施とともに歐州の被援助國を巡回して各國政府と連絡する特命移動大使に就任。

バルーク

バーナード・バルーク(Bernard Baruch) 前國連原子力委員會米代表。一八七〇年生。ニューヨーク大學卒。株式仲買商から政界に入る。ウイルソン大統領に用いられ國防審査會議議長、戰時産業委員長を歴任。フーズア、ルーズヴェルト兩大統領にも仕え、四六年國連原子力委員會米代表として有名なバルーク案を提出した。

范漢傑

(Fan Han-chieh) 東北掃共副司令。熱河省主席。黃埔軍官學校卒。第十八軍長、第三十八集團軍司令、西北行營參謀長を経て四六年陸軍副總司令。四七年山東作戰を指揮してチーフィー、威海衛を

占領。四八年二月精銳機械化部隊とともに錦州方面に出動、遼寧、熱河、河北邊區の政府軍總司令。

バンティンク

アール・バンティンク(Earl Bunting) 全米製造業者協會々長。一八七五年生。

[2]

ビヴァリッジ

サー・W・ビヴァリッジ(Sir W. Beveridge) 英労働黨議員。一八七九年生。失業問題の權威で社會保障法案の提出者。

ピオ

ピオ十二世(Pius XII) ローマ法王。一八七一年生。

ピツケル

フランク・E・ピツケル(Frank E. Pickelle) 總司令部經濟科學局外國貿易課長。一九一一年生。三二年シカゴ市デポール大學卒。同市のセロテックス會社輸出擔當支配人。四二年入隊、四五年九月經濟科學局外國貿易課長代理、マクダモット氏の後をうけて四八年二月現職に就任。

ビドー

ジョルジュ・ビドー(Georges Edouard) フランス外相。一九〇〇年生。中學校員、新聞記

者出身。大戦中反戦地下運動に活躍。四四年ド・ゴール政府の外相。四五年首相兼外相。ついでグリーン、ラマディエ、シェーマン三内閣の外相を歴任。現在人民共和黨(MRP)の黨首。

ピボン・ソソクラム

(Pibou Sossaram) シヤム國首相。元帥。一八九七年生。

フランス留學。立憲革命にパホン元帥をかついで武官派を指導、進歩的文官派と競争的地位に立つ。國防次官、國防相を経て一九三八年首相。太平洋戦争には日本と結び、英米に宣戦。四四年八月下野、戦後戦犯に問われたが釋放。四七年十一月クーデターを起し國防軍最高司令官に就任。四八年四月第二次ピボン内閣を組織。

ヒュース

ハワード・ヒュース(Howard Hughes) 米國の航空、映畫事業家。一九〇五年生。飛行機のスピード操縦士、航空機の製作技師、航空會社の経営主、映畫製作者。

ビユウ

ジョン・ハワード・ビユウ(John Howard) ジョナル・モーターズ自動車會社取締役會長。一八八二年生。

(チャー)

馮玉祥

(Feng Yu-shang) 國民黨革命委員會駐米代表。一八八〇年生。安徽省人。清朝没落後變轉常なき行動をとる。後北伐に呼應したが蔣介石にも三度反抗。抗日戰中軍事委員會副委員長。終戦後渡米、反政府運動を再開、米國の對華援助に反對。現在國民黨から除名。

[3]

フリーザー

ハーバート・フリーザー(Herbert Hoover) 元共和黨米大統領。一八七四年生。

ファン・モーク

H・J・ファン・モーク(H. J. Van Mook) オランダ領東インド副總督

兼インドネシア連邦臨時政府首班。一八九五年生。米國スタンフォード大學卒。一九四〇年日蘭會商オランダ代表、四一年本國政府植民相、ついで東インド副總督に就任。四二年ロンドンに亡命、戦後現職に復歸。オランダの對インドネシア政策の現地側最高責任者。

フィアリンガー

ズダネク・フィアリンガー(Zdenek Firinger) チェコスロヴァキア産業

相。一八九一年生。一九四五年以降社会民主党々首として首相に就任、四六年ゴットウルトに席を譲る。四七年二月共産黨政變の結果迎えられて現職就任。

**フェラー** ロバート・フェラー (Robert Feller) タリーヴランド・インディアンズ投手。「火の玉」投手として知られる。

**フォード** ヘンリー・フォード二世 (Henry Ford) 自動車工業資本家。一九一七年生。ヘンリーフォード一世の子エドゼル・フォードの長男。エール大卒。四五年祖父引退とともにフォード會社社長就任。

**フォレストル** ジェームス・フォレストル (James Forrestal) 米国防長官。一八九二年生。ニューヨーク州出身。實業界を経て一九四〇年海軍次官、四四年海軍長官。四七年九月國防總省新設とともに初代長官。

**傅作儀** (Fu Tso-ji) 華北掃共總司令。北平行營副主任兼任。一八九三年生。山西省人。保定軍官學校卒。はじめ、閻錫山の山西派に屬す。一九三一年綏遠

勃發後親英米派と目されて攝政。終戦後首相あるいは攝政。四七年十一月ビブ元帥のクーデタに際し、國外に亡命。

**ブルーム** レオン・ブルーム (Leon Blum) フランス社会黨々首。一八七二年生。九六年以來組合運動の闘士として活躍。一九三六年人民戦線内閣を組織。四〇年ベタン政府により逮捕。四六年再び内閣首班。

**ブルガーニン** ニコライ・ブルガーニン (Nikolai Bulganin) ソ連軍事相。一八九五年生。  
**フレージャー** ピーター・フレージャー (Peter Fraser) ニュージールランド首相。一八八四年生。労働者出身。一九一八年労働黨議員、四〇年以降首相。ニュージールランド労働黨々首。

**ベヴィン**アーネスト・ベヴィン (Ernest Bevin) 英外相。一八八四年生。あらゆる職業を轉々としその間夜學で勉強、運輸労働組合長を経て労働黨

(フー)

省主席、抗日戦中第十二戰區司令長官、終戦後察哈爾省主席。四五年の歸経防衛戦をはじめ滿州救援各作戦で國府軍中最もめざましい活躍をした。

**ブラサド** ラジエンドラ・ブラサド (Rajendra Prasad) 全インド國民會議派議長。一八八四年生。カルカッタ大卒。一九一六年まで教授生活、のち裁判官となり、ガンジーの不服従運動に参加、ピートル州國民會議派指導者となる。三四年第四十八回國民會議派大會議長。三六年全印會議派議長。四六年インド中間政府農業食糧長官。四七年八月獨立とともに農業食糧相。同年十一月現職。

**フランコ** フランシスコ・フランコ (Francisco Franco) スペイン統領。一八九二年生。パリ士官學校卒。一九三六年以來内戦鎮壓に活躍。三九年スペイン統領、最高司令官、フフランへ黨總裁就任。

**ブリジ・パノムヨン** (Pridi Panomyong) 元シヤム國攝政。一九〇〇年生。フランス留學。人民立憲革命の理論的指導者。パホン内閣の内相、外相、戦前のビブ内閣相を歴任。戦争

に入る。一九四〇年労働相、その後無任所相、内閣經濟顧問を歴任。四五年七月アトリー内閣の外相。

**ヘッセ** ヘルマン・ヘッセ (Hermann Hesse) ドイツの詩人にして小説家。一八七七年生。一九四六年ノーベル賞を受く。作品、小説「ペーテル・カームンツィンド」「荒野の狼」「夜の慰藉」等。  
**ベネシユ** エドワルト・ベネシユ (Eduard Benes) 前チエコスロヴァキア大統領。一八八四年生。一九一八年以降外相。三五年トーマス・マサリツクの後をつぎ大統領就任。三八年辭職、獨軍侵入と同時にロンドンへ亡命。四五年歸國大統領に再任。

**ヘミングウェイ**アーネスト・ヘミングウェイ (Ernest Hemingway) 米國小説家。一八九八年生。著書「誰がために鐘は鳴る」「われらの時代」「第五列」等。

**ベリア** ラヴレンチエフ・ベリア (Lavrentiyev Beria) ソ連副首相。一八九九年生。一九一七年共産黨入黨。三二年共産黨のコーカサス地方委員會書記長。三八年内務人民委員。四五年副首相。ソ連共産

黨の最高幹部の一人。

ベン・グリオン

David Ben-Gurion) イスラエル共和国首

班。一八八五年ポーランド生れのユダヤ人。一九〇四年パレスチナに移住、建國運動に従事し國外追放。第一次大戦には英國軍に加わりパレスチナ攻略戦に参加、自來パレスチナにとどまる。四八年ユダヤ臨時政府成立し首相兼国防相。同年五月十四日の獨立宣言と同時に首班。

【ホ】

ホー・チーミン

(Ho Chi-minh) 胡志明) ヲエトナム (越南) 共和国大統領。一八九二年

生。ソヴェトより歸國後、ウエトナム共産黨を創立し反佛運動を指導、佛官憲の彈壓によりホンコンに亡命。太平洋戦前佛印に潜入、ウエトナム革命同盟の領袖として反佛、抗日ゲリラ戦を指導。四五年アンナン帝國の崩壊と共にウエトナム共和国を樹立し大統領就任。

ホイットニー

Courtney Whitney) 總司令部民政局長。代將。

一八九七年生。第一次世界大戦終幕後に任官。一九二七年退役後マニラで辯護士を開業。太平洋戦争開始直前米陸軍航空隊に志願、當時フィリピン軍司令官であつたマ元帥の幕僚となる。總司令部設置と同時に民政局長に就任。

茅盾

(Mao Tun) 本名沈雁冰。中國の指導的小説家。一八九六年生。浙江省人。北京大學中退、五四運動に参加、のち文學研究會を組織、小説月報を主宰。一九二八—三〇年日本に滞在。戦時中二時新報大學教授著作「大轉機期」「清明前後」「腐蝕」「紅葉は二月の花より紅なり」等。

ホッジ

John Reed Hodge) 米朝鮮軍司令官、中將。一八九三年生。イリノ

イ大學卒。一九一七年フォート・シエリダンの陸軍士官學校卒。第一次大戦にはフランス戦線に出征。今次大戦には大佐で第七軍參謀長、のちガダルカナル、ニューギニア、ブーゲンビル、レイテ、沖繩と轉戦、四

五年日本の降伏と同時に朝鮮に上陸、現職に就任。

彭德懷

(Peng Teh-huai) 人民解放軍副司令。一九〇

〇年生。湖南省人。二七年中共に入黨。二八年平江暴動を起す。西遷のとき毛澤東に同行。抗戦中は第十八集團軍副司令、北方局書記を兼任。終戦後一時新設の平津軍區司令。四七年三月エンアン陥落後は人民解放軍副司令兼陝北人民解放軍司令。中共中央委員。

朴憲永

(Pak Heung-yung) 南鮮労働黨副委員長、南鮮共産黨最高指導者。一九〇二年生。忠清南

道出身。京城第一高普卒。シャンハイの高麗共産青年同盟に加入。一九二五年第一次期鮮共産黨事件で入獄出獄後ソ連に入り、歸國して共産黨再建中逮捕服役。その後地下運動をつゞけ四五年南鮮共産黨書記長。四六年九月占領政策違反のことで逮捕令が發せられて以來地下に潜る。四六年十一月現職に推される。

ホフマン

(Paul Hoffman) 米經濟協力局長官 (Economic Cooperation Ad-

ministrators) 一八九一年生。シカゴ大學卒。スチュー

(ホ)

ドベーカー自動車會社社長のほかシカゴ連邦準備銀行

ニューヨーク生命保險、ユーナイテッド・エアラインズの各取締役會長をつとめ、政府關係では經濟開發委員會、大統領特別對外委員會、中國援助委員會各委員兼任。一九四八年三月ドレイパー日本視察團員として來日、歸國後四月六日對外經濟協力局長官。

ポリット

(Harry Pollitt) 英共産黨書記長。一八九〇年生。機械工出身。コ

ミンテルン執行委員會幹部、機械工組合書記長を経て共産黨書記長。

ボレール

(Emile Bollaert) 佛印高等辨務官。一八九〇年生。第二次大戦

に抗戰運動組織者として活躍。一九四三年十月國民解放委員會在佛代表。四四年三月獨軍に逮捕されベルゼン收容所に收容。戦後急進社會黨から議會に入る。四七年三月現職。

【4】

マーカット

ウィリアム・F・マーカット (William F. Marquat) 總司令部經濟科學局長、少將。一八九四年生。一九四七年夏設置の被占領國日本輸出入回轉基金管理官を兼任。マツカーサー元帥とは過去十年間行動をともし、三八年マツカーサー元帥の對比軍事使節團に参加。

マーシヤル

ジョージ・C・マーシヤル (George C. Marshal) 米國務長官。 (Secretary of State) 元帥。一八八〇年生。一九〇八年陸大卒。三九年參謀總長。四六年大統領特使として中國の國共調停に活躍、のち外交界に入る。四七年一月國務長官。同年五月十二日ハーバード大學でいわゆるマーシヤル計畫を發表。

マーチン

ウィリアム・マーチン (William Martin) ワシントン輸出銀行總裁。一九〇六年生。コロンビア大學卒。連邦準備銀行、ニューヨーク株式取引所役員。四一年出征。四五年輸出銀行理事。四

六年總裁。

マーチン

ジョセフ・マーチン (Joseph W. Martin) 米共和黨下院議長。一八八四年生。一九二四年以來下院議員。四〇年共和黨全國委員長。四七年第八十議會の議長。

マイズ

ジョニー・マイズ (Johny Mize) ニューヨーク・ジャイアンツ一壘手。一九四七年本塁打五十本を記録。

マウントバツテン

ルイス・マウントバツテン (Louis Mountbatten) 前インド連邦總督。一九〇〇年生。ジョージ六世の従弟。ケンブリッヂ大學、グリニツチ海軍大學卒。第二次大戦には對滿上陸作戰の水陸兩用部隊司令官。四三年八月東南アジア連合軍司令官として對日戦を指揮。四七年三月インド總督。同八月獨立とともに初代インド連邦總督。四八年六月退職。

マクフエイル

ラリー・マクフエイル (Larry MacPhail) 野球事業家。一八九〇年生。ニューヨーク・ヤンキー・ベースボールクラブの會長。

米國野球界の大立物。

マクロイ

ジョン・マクロイ (John Mcloy) 國際復興開發銀行總裁。一八九五年生。實業界出身。一九四〇年陸軍省に入る。四一—四五年次官補。四七年三月現職。

マツカーサー

ダグラス・アーサー・マツカーサー (Douglas Arthur MacArthur) 連合軍最高司令官、元帥(ゼネラル・オブ・ザ・アーミー) 一八八〇年アーカンソー州リットル・ロックの陸軍兵舎で生る。一九〇三年ウエスト・ポイントの陸軍士官學校卒。一七年第一次大戦參加。一九年三十九才でウエスト・ポイント陸士校長。二五年少將に進級。三〇年フーヴァ大統領の下で參謀總長。三五年フィリピンに渡る。四二年マニラ陥落によりオーストラリアへ脱出。連合軍司令官となる。四四年十月レイテに上陸。翌四五年九月二日日本降伏調印式に臨み「正義と寛容をもつて責任を果す」との歴史的聲明を行う。爾來日本占領連合軍最高司令官として東京に在住。

マツコイ

フランク・マツコイ (Frank McCoy) 樞東委員會委員長 (Chairman of the Far Eastern Commission) 少將。一八七四年生。陸大卒。主としてキューバ、フィリピン派遣軍に勤務。二三年日本救済委員長。三二年リットン調査委員會に参加。三八年十一月退役。外交政策協會々長に就任。四六年現職。

マリク

ヤコブ・A・マリク (Jacob A. Malik) ソヴェト外務次官。一九〇五年生。三二年駐日大使館付參事官。四二年駐日大使。四五年八月對日宣戰布告を日本政府に手交。四五年九月歸國。四六年外務次官。四八年五月國連代表グロムイコと交替。

マレー

フィリップ・マレー (Philip Murray) 米國産業別組織會議(CIO)議長。一八八六年生。英國スコットランド出身。九三年渡米。一九二〇年炭礦労働者組合副會長。四〇年ルイスの後についてCIOの議長。

マン

トーマス・マン (Thomas Mann) ドイツ小説家。一八七一年生。作家ハインリッヒの弟、現

(モーモ)

代における世界的文豪。戦争中ナチ政府の壓迫をうけて米國に逃れ創作をつづけた。一九二九年ノーベル賞をうく。代表作「魔の山」「ブツデンプロク家の人々」三部曲「ヨセフとその兄弟」等。

【メ】

メイバンク

バーネット・メイバンク (Burnet Maybank) サウス・カロライナ州選出米民主黨上院議員。一八九六年生。一九一五年紡績産業學校卒。四四年以來上院議員。綿花生産州の代表として綿花輸出問題につきしばしば發言、對日綿花輸出の増加を唱えている。

メニューイ

イエフデイ・メニューイ (Yehudi Menuhin) 米國生れのユダヤ系ヴァイオリニスト。一九一六年生。

【モ】

モーム

ソマーセット・モーム (Somerset Maugham) 英國の小説家。一八七四年生。「雨ぞふる」

「シーザーの妻」「サークル」等の著作がある。

毛澤東

(Mao Tse-tung) 中國共產黨中央委員會主席。一八九三年生。湖南省人。長沙師範在學中マルクス研究会を組織。一九二一年中共一大大會に湖南代表として参加。二七年國共分裂後農民軍三千を組織。二八年朱德軍と合流中國最初の共産軍を創設。三一年江西省瑞金に赤色政權を樹立して主席。西遷後エンアンの中華ソヴェト共和國中央委員會主席。三五年コミンテルン中央執行委員。四五年中央委員會主席。四七年三月エンアン陥落後北部陝西で人民解放軍の總指揮をとる。著書は「新民主主義論」「持久戦論」「連合政府論」など。

モリソン

ハーバート・モリソン (Herbert Morrison) 英樞相 (Lord President of the Privy Council) 一八八八年生。チャーチル内閣の内相。アトリー内閣成立とともに樞相となる。

モロトフ

ヴァイアチエスラフ・モロトフ (Vyacheslav Molotov) ソ連外相。一八九〇年生。一九〇五年反帝革命に参加。七年共産黨入黨。一二年レ

ニン、スターリンの下で働く。二四年黨政治局員。三九年リトヴィノフの後をつぎ外相に就任。

【チ】

俞鴻鈞

(Yu Hung-chun) 中央銀行總裁。一八九六年生。廣東省人。シヤンハイ・セント・ヨハネ大學卒。シヤンハイ市政府代理財政局長、同市政府參事兼秘書長を歴任。一九三七年吳鐵城の後任として同市長に就任。戦時中財政部政務次長から孔祥熙財政部長の後をつぎ財政部長に就任。四八年五月現職。

俞大維

(Yu Tai-wei) 行政院交通部長。一八九七年生。浙江省人。米國ハーバード大學に學び哲學博士、のちベルリン大學で數學を研究。歸國後國立中山大學教授。戦時以來軍政部に關係、同部兵器工務長、軍政部長となる。一九四六年五月行政院の改組にもない交通部長。

熊式輝

(Hsiung Shih-hui) 戰略顧問委員。江西省人。保定軍官學校、日本陸大卒。一九三一年江西省の中共討伐軍參謀長、ついで同省主席。太平洋戦争

(チー)

當時軍事使節として渡米。終戦後東北行營主任として滿州の接收に當る。四七年陳誠將軍と交替。

【チ】

葉劍英

(Yeh Chien-ying) 中共中央委員。一九〇三年生。廣東省人。雲南講武堂卒。二七年廣東暴動に失敗、ドイツに逃れ三一年歸國。朱德軍參謀長、紅軍大學校長歴任。西安事變後西安事務所主任。戦時中中共ナンキン事務所主任、南嶽遊撃幹部特別訓練講習學校副主任、十八集團總參謀長。終戦後政治協商會議代表、ハイピン軍事調處執行部委員歴任。

余漢謀

(Yu Han-mou) 中國陸軍總司令。一八九一年生。廣東省人。一九二九年廣東クーデターに活躍、三六年陳濟棠の廣東獨立運動の際は蒋介石に加擔、その功により廣東治安主任。事變中は第七戰區司令。終戦後汕頭方面の接收に當り、のち浙江省衢州治安公署主任。四八年五月願祝同の後をおつて現職。

四四

【ラ】

ラヴェット

ロバート・ラヴェット (Robert Lovett) 米國務次官。一八九五年生。一九四〇年  
ニューヨークの銀行界から陸軍省に入り四五年退官。  
四七年七月國務次官就任。

ラウレル

ホセ・パシアノ・ラウレル (Jose Paciano Lauro) 元比島對日協力政權大統領。一八  
九一年生。フィリピン大學、米國エール大學卒。一九  
一九年ケンソン政府内務長官。二五年上院議員、のちフ  
イリピン大學法科教授、大審院判事を歴任。四三年對  
日協力政權大統領。終戦後反逆罪で起訴。四八年二月  
對日協力者大赦令で赦免。四九年末の大統領選挙の有  
力候補者。

ラジャゴバラチャリアル

チャクラバルチ・ラジャ  
ゴバラチャリアル (Chakrabarti Rajagopalachariar) インド連邦總督。一八  
七九年生。マドラス法科大學卒。一九一九年以來ガン  
ジの反英民族運動に参加。會議派書記長、マドラス

州首相を歴任。四六年八月インド中間政府産業補給長  
官。四七年獨立と共に西ベンゴール州知事。四八年五  
月現職。會議派穩健派の中心人物。

ラスキ

ハロルド・ラスキ (Harold Laski) 英労働黨  
幹部。一八九三年生。廿一才でマツクシル大  
學講師、以後ハーバード大學、ロンドン經濟學々校等て  
歴史、政治學を講義。一九二六年よりロンドン大學政  
治學教授。労働黨執行委員長をつとめたが四六年退職  
多元的國家觀を唱え「主權の研究」「近代國家におけ  
る權威」「ロツクからベンサムまでの政治思想」等の  
名著がある。

羅卓英

(Lo Cho-ying) 東北掃共副司令。一九三一年  
第一師長として掃共戦に参加。のち陳誠の第  
十八軍長。日華事變後期第十九集團軍長として雲南ビ  
ルマ戦線て活躍。終戦後廣東省主席。四七年辭職。東  
北行營主任陳誠に請われ副主任。

【リ】

リー

トリグヴェ・リー (Trygve Lie) 國連事務總長  
一八九六年生。一九三五年ノールウェー法相。  
三九年商相。四〇年以降首相。四六年國連事務總長に  
轉出。

リアカット・アリ・カーン

(Kahn Liaquat ali Khan) パキスタン首相  
一九〇八年アリ・ジンナーが回教徒連盟を創立して以  
來の黨員。法曹家出身、英國に留學。ジンナー回教徒  
裁につく有力な領袖。四六年九月インド中間政府の  
財務長官。四七年パキスタン國誕生と同時に初代首  
相。

劉少奇

(Liu Shao-chi) 中國共產黨中央委員會副主席  
一九〇五年生。湖南省人。モスクワ大學卒。  
三三年全國總工會委員長として労働運動を指導、のち  
中原局委員。四一年皖南事件後政治委員として陳毅を  
助け新四軍再建工作に當る。四五年副主席。毛澤東に  
つく中共屈指の理論家。

李濟深

(Li Chi-shen) 國民黨革命委員會委員長。一  
八八六年生。廣西省人。北京陸軍大學卒。一  
九二七年北伐終了後大廣西主義實現をはかつて失敗、  
ナンキンに監禁され三一年釋放。三二年福建獨立に失  
敗ホンコンに逃亡。日華事變で復活、軍事委員會常務委  
員、戰地黨政委員會副主任。終戦後ホンコンを中心に  
反蔣運動を再開、四七年國民黨から除名。國民黨左派  
分子と革命委員會を設立。

李承晩

(Lee Sir-man) 大韓獨立促成國民會議總裁。一  
八七六年生。黃海道出身。米國に留學、哲學  
博士となる。一九一一年寺内總督暗殺事件に連坐して  
米國に亡命。一九年シヤンハイに樹立された韓國假政  
府臨時大統領。二一年辭任。駐米外交委員長。四五年  
十月歸國、獨立促成中央協議會を組織、米軍政廳の諮  
問機關民主黨院總裁、民族統一總本部總裁を兼任。朝  
鮮獨立運動の元老で右翼の最高指導者。

劉伯承

(Liu Po-cheng) 人民解放軍鄂予皖軍區司令  
一八九六年生。四川省人。一九二六年中共に  
入黨、南昌暴動に参加。二七年ソヴェト留學。二九年

東支鐵道問題擴大するや中日韓人軍團を組織して歸國  
彭揚軍事學校長、西北軍事委員會主席を経て日華事變  
中は一一九師團長兼晉冀魯豫軍區司令。四七年七月  
「南征」の先陣を切り、大別山地區に進軍鄂豫皖軍區  
を再建。中共中央委員。

李宗仁

(Li Zongren) 副總統。一八九〇年生。廣  
西省人。廣西陸軍軍學堂卒。國民革命軍第四集  
團軍總司令として北伐に参加、のち蔣介石としばしば  
兵を交えて敗れたが廣西派の實力者として隱然たる勢  
力を持つ。一九二七年蔣が下野外遊した後をうけて革  
命軍總司令に就任。日華事變には蔣と和解、徐州會戰  
の總指揮官。終戦後北平行營主任、國民黨中央執行委  
員。四八年四月副總統。

李立三

(Li Lisan) 本名李敏然。中共東北行政委員  
會外務局長。一八九六年生。湖南省人。フ  
ランスに留學、歸國後中共に入黨。五・三〇事件、南昌  
暴動、長沙暴動を指導。一九三〇年その「李立三コー  
ス」の誤謬を指摘され三一年ソヴェトに入る。四五年  
中共七全大會で復活を承認され中共中央委員。終戦後

滿州に歸り對ソ外交、中共地區日本人送還の衝に當る  
(Lin Piao) 東北人民解放軍總司令。一九〇八年  
生。湖南省人。一九二五年黃埔軍官學校卒。二  
九年廿二才で紅軍第四軍長。三二年第一軍團司令。三  
六年紅軍軍官學校長、日華事變中第百十五師長を経て  
抗日軍政大學長。終戦後滿州に入り東北民主連軍を組  
織(四八年一月東北人民解放軍に改稱)、總司令とな  
る。中共中央委員。

林語堂

(Lin Yutang) 本名林玉堂。中學文學者。一  
八九五年生。福建省人。ハーバード大學、ラ  
イプチヒ大學卒。歸國後シャンハイで「論語」「人間  
世」「宇宙風」の諸雜誌を主宰、ユーモアと機智に富  
む輕妙な筆致で文名大いに揚がる。戦時中殆ど米國に  
居住。「生活の發見」「わが國土わが國民」「中國の  
智慧」「インドの智慧」など著書が多い。

【ル】

ルース

ベープ・ルース (Babe Ruth) 元ニューヨーク  
ク・ヤンキース外野手。一八九五年生。一シ

ーズン本編打六十本の記録を持つ。

ルイス

ジョー・ルイス (Joe Louis) 米國拳闘家。一  
九一三年生。三七年ブラドックをノックアウト  
トして世界重量選手權を獲得。以來世界拳闘界の王座  
を占めている。

ルイス

ジョン・ルイス (John Luis) 米國炭礦労働  
者組合 (UMW) 會長。一八八〇年生。ハイ  
スクール中退後炭礦夫となり組合運動に参加。一九一  
七年UMW副會長。二〇年會長。ながらくAFL副會  
長であつたが三五年除退してCIOを組織、議長とな  
る。三九年CIOから別れて獨立。四六年再びAFL  
に復歸。四七年十一月タフト・ハートレー法で意見對  
立し再びAFLを脱退。

ルイス

シンクレア・ルイス (Sinclair Lewis) 米國  
小説家。一八八五年生。一九三〇年ノーベル  
文藝賞を受く。大作「メイン・ストリート」「アロウ  
・スミス」「バビット」等がある。

ルースヴェルト夫人

エリノア・ルースヴェルト  
(Eleanor Roosevelt) 一

ズヴェルト前大統領夫人。一八八四年生。英國留學。  
一九二二年ニューヨーク州民主黨婦人部指導者。四五  
年一月國連第一回總會の米代表としてロンドンに派  
遣。四六年來國連人權委員會の委員長。

【レ】

レンナー

カール・レンナー (Karl Renner) オース  
トリア大統領。一八七〇年生。一九一八年  
首相。三一―三三年國民會議々長。三四年ウインの社  
會民主革命に連坐して投獄。ドイツ崩壊と同時に四五  
年大統領。

【ロ】

ロイヤル

ケネス・C・ロイヤル (Kenneth C. Royal)  
陸軍長官。一八九四年生。ノースカロライ  
ナ州選出上院議員。一九一八年陸軍に入る。四三年代  
將。四五年陸軍次官。四七年新制度の陸軍省長官に就  
任。

(ローマ)

NO

老舎

(Lao She) 本名舒舍予。中國小説家。北京生れの満州旗人。ロンドン大學卒。歸國後齊魯大學教授。一九四六年招かれて渡米。「二馬」「老張の哲學」「趙子曰」「牛天賜傳」などを著す。戦時中北京の一舊家を描く大作「四世同堂」を發表。舊作「駱駝祥子」は「人力車夫」の題で四五年英譯されベストセラーとなる。

ロツクフェラー二世

ジョン・ロツクフェラー・ジュニア (John Rockefeller, Jr.)

ロツクフェラー財團會長。一八七四年生。

ロバートソン

サー・フライアン・ロバートソン (Sir Brian Robertson) ドイツ占領英軍政

長官。陸軍中將。一八九六年生。一九四一—四二年中東英部隊勤務。四七年一月現職。

ロバートソン

ホラス・クレメント・ヒュー・ロバートソン (Horace Clemen Hugh Robertson) 英連邦日本占領軍司令官、陸軍中將。一八九四年生。オーストラリア、ダントルーンの陸軍士官學校卒。第二次大戦には歩兵旅團長としてイタリア戦線で

活躍、のち太平洋戦線に轉じ、第五師團長としてラバウル、ウエワクなどに轉戦。

ロフソン

ポール・ロフソン (Paul Robeson) 米國黑人歌手。一八九八年生。進歩的傾向をもつ歌手として人氣がある。

ロムロ

カルロス・ロムロ (Carlos P. Romulo) 國連比島代表。極東委員會比島代表。一八九九年生。フィリピン大學、米國コロンビア大學卒。戦前フィリピンの有力新聞人、フィリピン大學文學部教授。戦時中米比軍に参加し代將となる。戦後駐米フィリピン辨務官から現職。

戦時中米比軍に参加し代將となる。戦後駐米フィリピン辨務官から現職。

[7]

ワイズマン

チエーム・ワイズマン (Chaim Weizmann) イスラエル共和國臨時大統領。一八七四年ロシアに生れ、後英國に歸化。化學者で世界シオニスト會議々長、ユダヤ代表部主席として有名。バルフォア宣言(一九一七年)の實現にも貢献。四八年五月イスラエル共和國樹立とともに臨時大統領。

追 補

[6]

顧維鈞

(Ku Meng-yu) 行政院副院長。河北省人。一八八八年生。ベルリン大學卒、經濟學を専攻。歸國後北京大學教授、一九二六年國民黨中央執行委員。二七年中央常務委員、中央黨部宣傳部長、國府委員にあげられ、左派の領袖として武漢政府で活躍。三一年汪兆銘の下に鐵道部長。三五年から二年間中央政治委員會秘書長などをつとめたが、汪氏の重慶離脱以來不遇の立場に置かれていた。終戦後、國連中國代表團顧問に任せられ米國に滞在。四八年五月現職。

一八八八年生。ベルリン大學卒、經濟學を専攻。歸國後北京大學教授、一九二六年國民黨中央執行委員。二七年中央常務委員、中央黨部宣傳部長、國府委員にあげられ、左派の領袖として武漢政府で活躍。三一年汪兆銘の下に鐵道部長。三五年から二年間中央政治委員會秘書長などをつとめたが、汪氏の重慶離脱以來不遇の立場に置かれていた。終戦後、國連中國代表團顧問に任せられ米國に滞在。四八年五月現職。

[7]

フランクス

オリヴァ・フランクス (Oliver Franks) 駐米英國大使。一九〇五年生。オックス

フォード卒。三七年以來グラスゴー大學倫理學教授。三九年供給省に入り、大戦中は米國當局と航空機資材の調辨に活躍。四八年六月駐米大使。

追 補

[8]

ベルナドット伯

フォルク・ベルナドット伯 (Folke Bernadotte) 國連パレスチナ調停官

一八九三年生。スエーデン赤十字副會長、國際赤十字代表。一九四五年ベルリンに乗込みドイツのヒムラー内相と降伏交渉を行ったことがある。四八年五月國連安全保障理事會からパレスチナ調停官に任命された。

[9]

マラン

ダニエル・マラン (Daniel Malan) 南ア連邦首相、國民黨々首。一八七四年生。オランダの大學卒業後、民族主義理論をかまげ政界に入る。一九二四年ヘルツォーク國民黨内閣の内相、二九年内務、厚生、文部三相兼任。四八年六月スマッツ氏の落選により國民黨が十五年ぶりに政權を掌握、首相に就任。

ダニエル・マラン (Daniel Malan) 南ア連邦首相、國民黨々首。一八七四年生。オランダの大學卒業後、民族主義理論をかまげ政界に入る。一九二四年ヘルツォーク國民黨内閣の内相、二九年内務、厚生、文部三相兼任。四八年六月スマッツ氏の落選により國民黨が十五年ぶりに政權を掌握、首相に就任。



世界各國面積・人口

國名	面積 (平方マイル)	人口 (千人)	調査年	備考
アルゼンチン	1,076,769	16,106	1947	
ヴェネズエラ	352,250	4,300	1946	
ウルグアイ	71,771	2,281	1946	
エクアドル	258,830	3,340	1946	
コロンビア	499,830	10,544	1947	
チリ	286,396	5,479	1947	
パラグアイ	150,515	1,200	1946	
ブラジル	3,286,170	46,736	1946	
ペルー	482,258	7,039	1947	
ポリビア	46,040	3,788	1946	
州	10,383,000	501,186	—	
フルベニア	10,629	1,030	1930	最近推計
アンドラ	191	5	—	
イギリス本國	49,279	47,890	—	最近推計
イタリア	199,800	45,646	1946	
ヴァチカン	16	—	1933	
エストニア	27,137	2,953	1946	
オランダ	18,353	1,134	—	最近推計
オランダ	15,761	9,630	1947	
世界	51,340,000	3,150,960	—	
米州	15,633,000	258,057	—	
米州	3,033,387	131,669	—	
アラスカ	568,400	73	—	
カナダ	3,690,410	21,506,655	1947	
メキシコ	763,944	33,766	1946	
グアテマラ	112,111	3,757	1946	
ホンチユラス	59,161	1,300	1946	
エル・サルバドル	23,176	1,797	1946	
ニカラガ	57,112	1,108	1946	
コスタリカ	19,338	773	1947	
パナマ	28,575	633	1946	
キューバ	44,128	5,032	1947	
ドミニカ	19,129	2,251	1947	

附録

ギリシア	五〇、五七	七、七〇〇	一九四七	ブルガリア	四一、八〇八	七、〇三二	一九四六
サンマリノ	一、一八	一、一八	一九四七	ベルギー	一一、七七五	八、三八九	一九四〇
スイス	一五、七三	四、四〇〇	一九四六	ポルトガル	三三、四六六	八、三三三	一九四六
スエーデン	一七、三三	六、七一九	一九四四	モナコ	一、一八	三〇	一九三九
スペイン	一九六、一〇七	二七、二四六	一九四六	ラトビア	三三、四〇二	一、九四一	一九四一
チエコスロバキア	四九、三五六	一一、〇四七	一九四六	リニア	三三、九四九	二、八七九	一九四一
ソヴェト	八、四七三、四四四	二二一、三八五	一九四七	リヒテンシュタイン	一、一八	一一	一九四一
デンマーク	一六、五七五	四、一〇二	一九四六	ルクセンブルグ	九、九八	二、八八	一九四六
下イット	一八、四七一	六九、〇三	一九三九	ルーマニア	九、五八四	六、六八六	一九四一
ソ連地帯	四六、六〇〇	一七、三〇〇	一九四六	オーストリア	三、三六九	六、六八六	一九四一
英國地帯	四、七〇	三三、八〇〇	一九四六	アイスランド	三九、七〇九	一、三三	一九四六
米國地帯	三六、九〇〇	一六、九〇〇	一九四六	ポーランド	一一〇、八二九	三三、九三〇	一九四六
佛國地帯	一六、七〇〇	五、九〇〇	一九四六	トリエステ	四、三〇	三三〇	一九四七
ベルギー	三、〇〇〇	一、三三	一九四六	ユーゴスラビア	四、五五六	一四、八〇〇	一九四六
合計	一、一三〇、〇〇〇	六九、〇三一	一九四六	アフリカ	一一、一〇〇	二、四九、九〇〇	一九四六
ノルウェー	一、五五六	三、一〇五	一九四六	アルゼリア	八四七、五五二	七、三三三	一九四六
ハンガリー	三、八七五	九、三〇九	一九四六	モロッコ	一七二、一〇四	九、〇八三	一九四一
フィンランド	一三、四八八	三、八七七	一九四六	エチオピア	三六六、〇〇	一、〇〇〇	一九四七
フランス	二二、六五九	四〇、五一八	一九四六				

佛領西ア	一、八三、七六八	一五、九四五	一九四七	北ボルネオ(英)	二九、五〇〇	二七〇	一九三一
エチオピア	三三〇、一〇〇	一五、〇〇〇	一九四七	ブルネイ(英)	二、三二六	三〇	一九三一
白領コンゴ	九〇一、〇八二	一〇、四三三	一九四七	シラワク(英)	五〇〇、〇〇〇	四九一	一九四〇
スダン	九六九、六〇〇	六、五九一	一九四六	ホンコン(英)	三九、九	一、〇三一	一九四〇
南亞連邦	四七三、五五〇	一一、三六八	一九四六	ビルマ	二六、一六〇	一四、六六七	一九四一
アジア	一〇、三三〇、〇〇〇	一、〇六、三三三	一九四一	インド連邦	一、六三、〇〇〇	三、四、〇〇〇	一九四〇
日本	一四七、六九〇	七、八、三三二	一九四二	パキスタン	二九、九、四二〇	八四、九九八	一九四一
中国	二、二七九、一三四	四六、〇〇六	一九四七	ネパール	五、四、〇〇〇	五、六〇	一九四〇
朝鮮	八六、三六四	二、三六一	一九四二	ブータン	一八、〇〇〇	三〇〇	一九四〇
南朝鮮	三七、二九九	一九、三六九	一九四六	セイロン	三、三三二	五、三三三	一九三一
北朝鮮	四九、〇六五	八、五三八	一九四六	アフガニスタン	三三〇、〇〇〇	一一、〇〇〇	一九四一
フィリピン	一一四、八三〇	一、九、一六六	一九四六	インドネシア連邦	七、三五、一六六	七、〇〇〇	一九四四
佛印	二八〇、八四九	二四、一六一	一九四六	イラク	一七五、〇〇〇	四、八〇三	一九四六
ヴェトナム	一一三、九九九	二〇、〇九一	一九四六	イラン	六八、一六〇	一七、〇〇〇	一九四六
ラオス	八九、三三〇	三、四四六	一九四六	トルコ	三、四、七三〇	四〇〇	一九四六
カンボジア	五、六、九七三	一、〇三三	一九四六	トルコ	二、九四、四二六	一九、〇一〇	一九四六
タイ	二〇〇、一四八	一八、一四七	一九四六	サウジアラビア	三三、〇〇〇	六、〇〇〇	一九四六
マライ連合	四九、六二〇	四、一二四	一九四〇	パレスチナ	一〇、四三九	一、九二二	一九四六
シンガポール(英)	一、三五六	一、四四五	一九四一	シリア	五、三〇〇	三、〇六	一九四六

附録

レバノン	三、六〇〇	一、二六〇	一九四六
太洋州	三、三一一、〇〇〇	七、五九四	一九四六
オーストラリア	二、九七四、五八一	七、三六五	一九四六
ニュージーランド	一〇三、九三五	一、七六一	一九四六



昭和二十三年六月二十日印刷  
昭和二十三年六月廿五日發行

最新 國際問題辭典

定價 二百二十圓

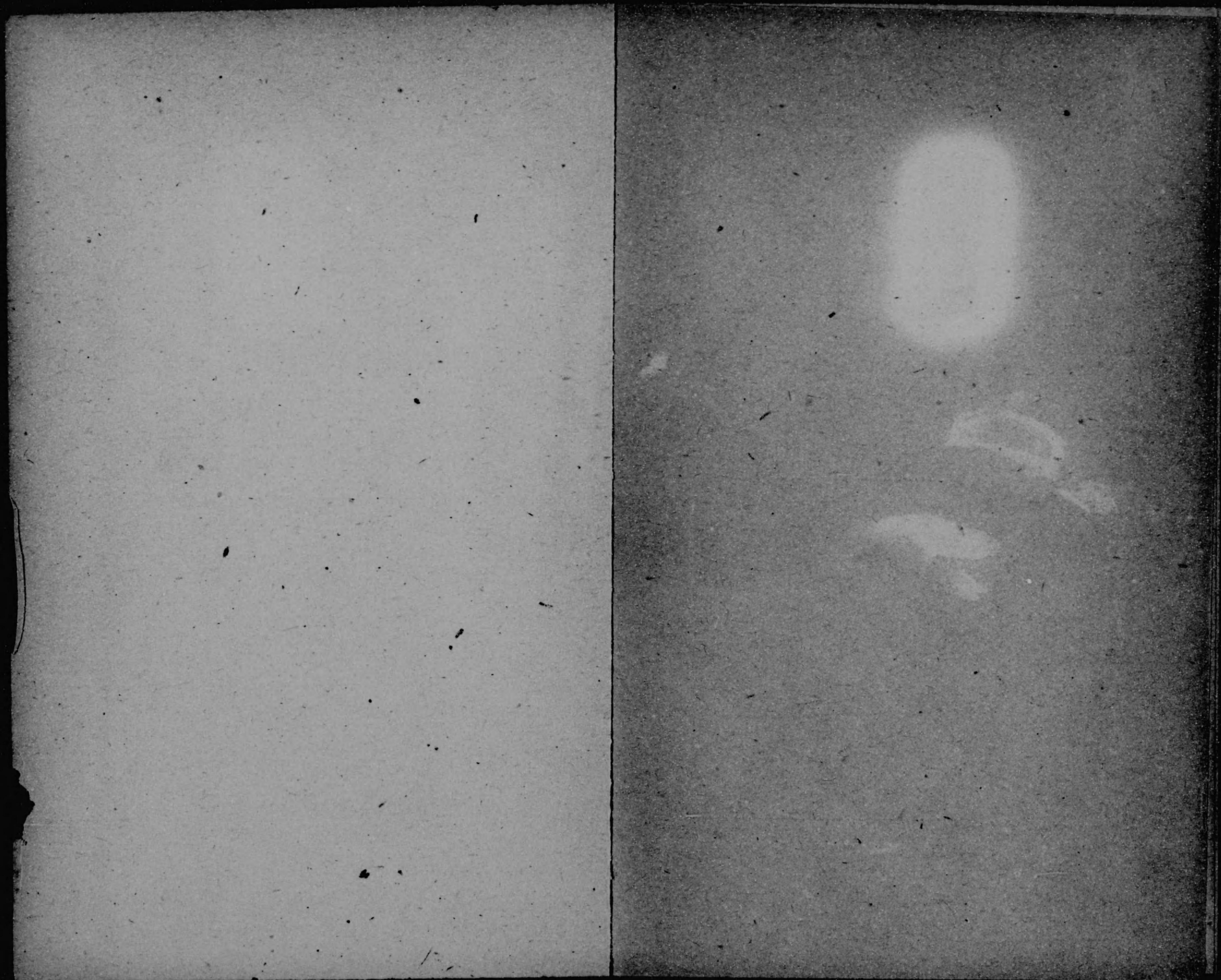
著者 共同通信社

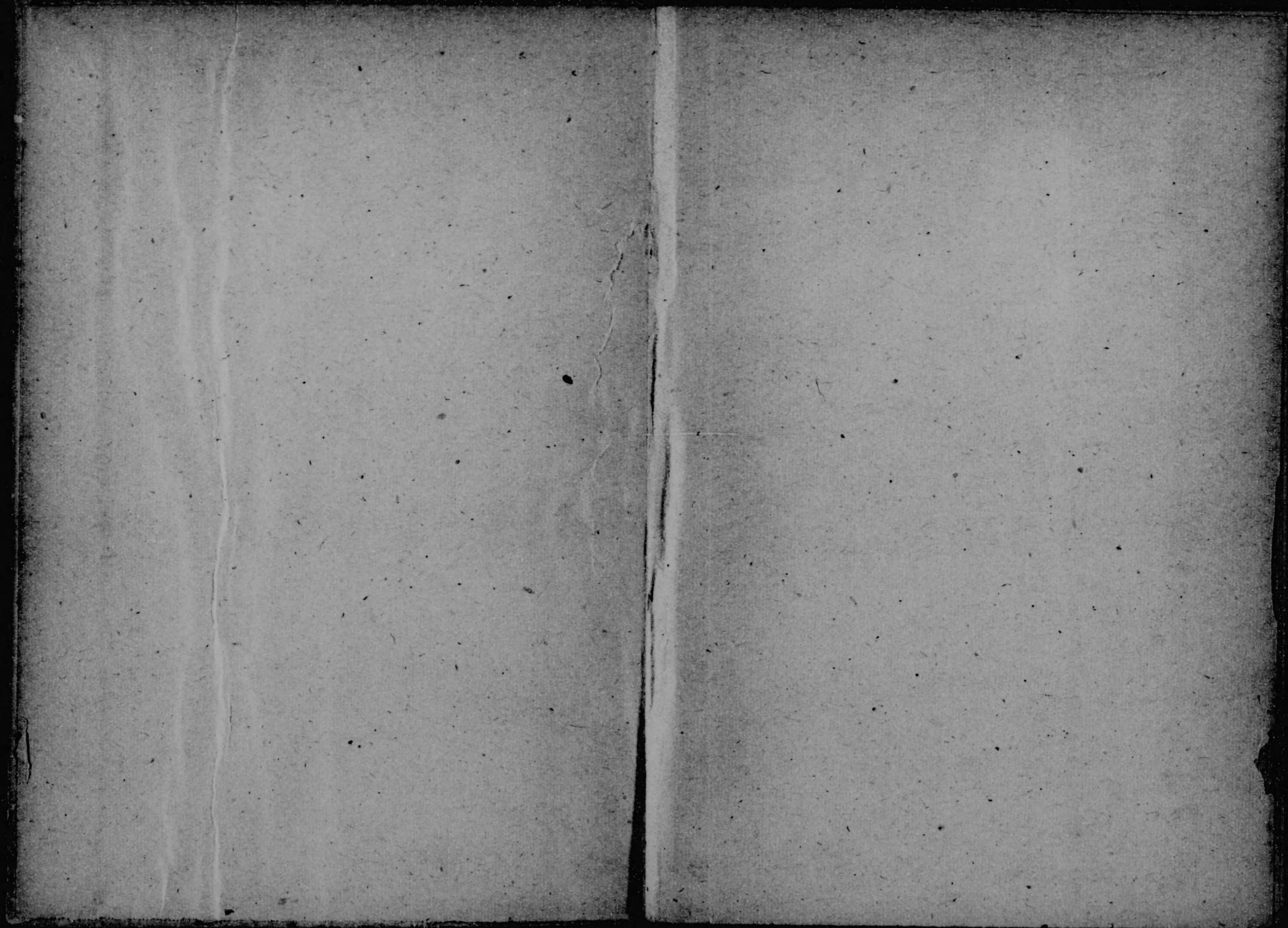
發行人 藤山 健

發行所 東京都中央區日本橋本町二ノ一六  
日本經濟新聞社

電話本町(66)代三三二

本辭典の發行は、東京の共同通信社に委託して行われ、その代金を共同通信社が負担するものとされている。





日本經濟新聞社刊